

授業概要

科目名	人間の尊厳と自立	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	長尾 洋江		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
【授業を通じての到達目標】									
①他者からの援助を必要としている人を目の前にした時、介護福祉職員の私には何ができるのか、何をしてはいけないのかがわかる									
②自立(自律)の支援とはどんな支援をいうのかがわかる									
③学習した内容を現場で実践できるようになる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
①高齢者・障害者支援の現場に勤務中の講師が担当することの強みを生かし、『現場のリアル』をお伝えしながら授業を進めます									
②全日程を演習やグループディスカッションで構成し、体を動かしながら理解できるように工夫します									
③国家試験に出やすい部分は単元後半にまとめて学習します									
【使用教科書・教材・参考図書】									
最新 介護福祉士養成講座1「人間の理解」(中央法規出版)第2版第一章(＋巻頭カラー頁)									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座1「人間の理解」(中央法規出版)第2版第一章(＋巻頭カラー頁)					①習ったことは当日中に復習をしましょう ②1年生のうちから介護福祉士国家試験過去問題を解く習慣を身につけましょう ③勉強の内容がわからないときは遠慮なく声をかけてください				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 自己決定権の尊重 自立(自律)と依存#「介護」とはなにをすることか 人間を理解すること:生活の営みの姿を知ることから始まる				9	【授業単元】 自己選択と自己決定 拒否する権利 羞恥心 社会参加 自分の中にある偏見・差別 生まれてきた意味を考える			
	【到達目標】 自己決定権の尊重 自立(自律)と依存 「介護」とはなにをすることか 自分の気持ちを他の人に上手に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習ができる					【到達目標】 自分の気持ちを他の人に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習ができる			
2	【授業単元】 介護とはなにをすることか 世界人権宣言第22条自己選択・自己決定				10	【授業単元】 自己選択と自己決定 拒否する権利 羞恥心 人が死ぬということ ベッドサイドマナー アドボカシー			
	【到達目標】 自分の気持ちを他の人に上手に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習をすることができる					【到達目標】 自分の気持ちを他の人に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習ができる			
3	【授業単元】 介護とは何をすることか ベッドサイドマナー 自立(自律)と依存 高齢者虐待防止法(虐待5類型)ADLとQOL				11	【授業単元】 自己選択と自己決定 拒否する 権利羞恥心 自分の中にある偏見・差別 人が死ぬということ ベッドサイドマナー			
	【到達目標】 自分の気持ちを他の人に上手に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習をすることができる					【到達目標】 自分の気持ちを他の人に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習をすることができる			
4	【授業単元】 日本国憲法第25条:生存権 日本国憲法第13条 幸福追求権 障害者基本法第1条 介護保険法				12	【授業単元】 ベッドサイドマナー			
	【到達目標】 自分の気持ちを他の人に上手に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習をすることができる 自分のことを大切にできなくなっている人の気持ちを考えて行動することができる					【到達目標】 自分の気持ちを他の人に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習をすることができる			
5	【授業単元】 介護とは何をすることか ベッドサイドマナー 自己選択と自己決定 拒否する権利 羞恥心 社会参加 介護保険法				13	【授業単元】 ソーシャルインクルージョン ベッドサイドマナー			
	【到達目標】 自分の気持ちを他の人に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習をすることができる					【到達目標】 自分の気持ちを他の人に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習			
6	【授業単元】 ノーマライゼーション 自己選択と自己決定 拒否する権利 羞恥心 社会参加 自分の中にある偏見・差別				14	【授業単元】 前期振り返り			
	【到達目標】 自分の気持ちを他の人に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習をすることができる					【到達目標】 国家試験に備えよう(過去問題を使ってポイントを整理しよう) また、試験は筆記試験で行う。 自分の気持ちを他の人に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習14			
7	【授業単元】 自己選択と自己決定#拒否する権利#羞恥心#社会参加#自分の中にある偏見・差別#生まれてきた意味を考える 障害者基本法第1条				15	【授業単元】 定期試験 全体振り返り			
	【到達目標】 自分の気持ちを他の人に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習をすることができる					【到達目標】 全体の振り返り			
8	【授業単元】 中間試験 ベッドサイドマナー#自立と自律#自己選択と自己決定 拒否する権利 羞恥心 社会参加#自分の中にある偏見・差別 アドボカシー 生まれてきた意味を考える				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 自分の気持ちを他の人に伝えられない人の気持ちに寄り添い汲み取る練習 前期の振り返り								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	人間関係とコミュニケーションⅠ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	長尾 洋江		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1.自分を知り、自分以外の他者に関心が持てるようになる 2.利用者から愛され、仲間から信頼される自分になる 3.国家試験で出題される用語を理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
「人間の尊厳と自立」に記載した内容と同様でお願いします									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護福祉士養成講座1「人間の理解」					①習ったことは当日中に復習をしましょう ②1年生のうちから介護福祉士国家試験過去問題を解く習慣を身につけましょう ③勉強の内容がわからないときは遠慮なく声をかけてください				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション ①授業中のお約束ごとを理解して実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション演習その1				9	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践9			
	【到達目標】 ＃介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)と対人距離＃自己認知と他者理解 理解することができる					【到達目標】 ＃介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)＃対人距離＃環境整備＃障害を持つ方への具体的配慮方法			
2	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの演習				10	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践10			
	【到達目標】 到達目標(keywordの理解)】 ＃介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説復習 ＃挨拶(あいさつ)と対人距離＃利用者居住空間の環境整備 を理解することができる					【到達目標】 ＃介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)＃対人距離＃環境整備			
3	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション演習				11	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践11			
	【到達目標】 介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説復習 ＃挨拶(あいさつ)と対人距離＃利用者居住空間の環境整備 を理解することができる					【到達目標】 介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)＃対人距離＃環境整備			
4	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション				12	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践12			
	【到達目標】 介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)＃対人距離＃利用者居住空間の環境整備 を理解することができる					【到達目標】 ＃介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)＃対人距離＃環境整備＃コミュニケーション傾向＃チームケア			
5	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション演習5				13	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践13			
	【到達目標】 介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)＃対人距離＃利用者居住空間の環境整備					【到達目標】 ＃介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)＃対人距離＃環境整備＃コミュニケーション傾向＃チームケア			
6	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション演習6				14	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践14			
	【到達目標】 ＃介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)＃対人距離＃環境整備と配慮＃障害を持つ方への具体的配慮方法					【到達目標】 介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)＃対人距離＃環境整備＃チームケア			
7	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション演習7				15	【授業単元】 ①前期試験 ②国家試験対策 ③授業中のお約束ごとを実践する			
	【到達目標】 ＃介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)＃対人距離＃環境整備と配慮＃障害を持つ方への具体的配慮方法					【到達目標】 ＃国家試験必出ワードのまとめ			
8	【授業単元】 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション演習8 中間試験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60％、毎回授業の小テスト等40％の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 前期の振り返り ＃介護とは何をするのか＃マズローの欲求5段階説 ＃挨拶(あいさつ)＃対人距離＃環境整備と配慮＃障害を持つ方への具体的配慮方法								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	地域共生学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	松沢 愛子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域共生社会、地域包括ケアシステムについて知り、理解につなげることができる。 地域共生社会の実現のための制度や施策について知り、理解につなげることができる。 地域共生社会のについて個人の枠の中でまずは自分の言葉で解釈し、理解したものを表現して他者へ伝えることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
複合施設を運営する法人として、高齢者・障がい者・子どもなど多様な方への支援に加え、地域に根差し共にまちづくりを考えるソーシャルワーカーとして、施設と地域の関係を深めることが重要だと感じている。実際に「自身」と「地域」の関係性を感じ、将来体现できるよう、考える時間や話し合う時間を多く設ける授業としていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
①地域共生社会のポータルサイト ②地域包括ケアシステムー厚生労働省 ③地域包括ケアシステムから地域共生社会へ ④SDGsえどがわ10の行動					地域共生社会の視点を学内やクラス内で適用できるように意識すること。 自分だけでなく他者を意識して相互理解することを心がけてほしい。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション			9	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～デイサービス～				
	【到達目標】 地域共生学Ⅰの進め方を知ることができる(単位、科目評価について) 導入～地域と自分について考える				【到達目標】 地域共生社会を体现するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる				
2	【授業単元】 「まち」を自分事として捉える			10	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～訪問介護～				
	【到達目標】 自分が、地域の人が住みやすい理想の「まち」について考える				【到達目標】 地域共生社会を体现するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる				
3	【授業単元】 「まち」を自分事として捉える			11	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～老人ホーム①～				
	【到達目標】 理想の「まち」を作るために何が必要か考える				【到達目標】 地域共生社会を体现するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる				
4	【授業単元】 「まち」を自分事として捉える			12	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～障がい(生活介護)～				
	【到達目標】 グループワークから学んだことをまとめ、発表し合う。				【到達目標】 地域共生社会を体现するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる				
5	【授業単元】 地域共生社会を理解する(1)～インプット～			13	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～保育園～				
	【到達目標】 “地域”という言葉について知り、理解をすることができる。 “地域”を知って、考えるワークを通じて理解を深めることができる。				【到達目標】 地域共生社会を体现するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる				
6	【授業単元】 地域共生社会を理解する(2)～インプット～			14	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～居宅介護支援事業所～				
	【到達目標】 “共生”という言葉について知り、理解をすることができる。 “共生”を知って、考えるワークを通じて理解を深めることができる。				【到達目標】 地域共生社会を体现するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる				
7	【授業単元】 地域共生社会を理解する(3)～インプット～			15	【授業単元】 定期テスト～アウトプットの評価～				
	【到達目標】 地域共生社会について知ることができる。 地域共生社会の実例を基に見識を深めることができる。				【到達目標】 PowerPointでの発表を聞き、質問を行い、互いを評価し合うことができる ふりかえりと総評				
8	【授業単元】 中テスト～アウトプットの評価～			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 地域共生について他者に説明することができ、自分なりの考えを持つことができる。 ふりかえりと総評								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・自分が感じたこと、頭の中にある考えを表現、アウトプットする力をつけること。 ・制度や概念、考え方を自分の言葉で言い換えることができるようになること。									

授 業 概 要

科目名	地域共生学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	松沢 愛子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域共生社会、地域包括ケアシステムについて知り、理解につなげることができる。 地域共生社会の実現のための制度や施策について知り、理解につなげることができる。 地域共生社会のについて個人の枠の中でまずは自分の言葉で解釈し、理解したものを表現して他者へ伝えることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
複合施設を運営する法人として、高齢者・障がい者・子どもなど多様な方への支援に加え、地域に根差し共にまちづくりを考えるソーシャルワーカーとして、施設と地域との関係を深めることが重要だと感じている。実際に「自身」と「地域」の関係性を感じ、将来体現できるよう、考える時間や話し合う時間を多く設ける授業としていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
①地域共生社会のポータルサイト ②地域包括ケアシステムー厚生労働省 ③地域包括ケアシステムから地域共生社会へ ④SDGsえどがわ10の行動					地域共生社会の視点を学内やクラス内で適用できるように意識すること。 自分だけでなく他者を意識して相互理解することを心がけてほしい。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 「地域包括ケアシステム」の概要について知る			9	【授業単元】 「重層的支援体制整備事業」について知る①				
	【到達目標】 「地域包括ケアシステム」の5つの構成要素について知ることができる。 「地域包括ケアシステム」について知ったことを表現できる				【到達目標】 「重層的支援体制整備事業」について知ることができる。				
2	【授業単元】 「地域包括ケアシステム」について事例を通して理解する			10	【授業単元】 「重層的支援体制整備事業」について知る②				
	【到達目標】 事例から「地域包括ケアシステム」を俯瞰して知り、自ら表現ができる。				【到達目標】 事例から「重層的支援体制整備事業」を俯瞰して知り、自ら表現ができる。 事例を選択してグループで互いに表現し合い、まとめて発表に繋げる準備をすることができる。				
3	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～老人ホーム②～			11	【授業単元】 重層的支援体制整備事業」について知る③				
	【到達目標】 地域共生社会を体現するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる				【到達目標】 グループ毎に発表を行い、他者から感想や評価を受けることができる。				
4	【授業単元】 地域共生を意識してまちを見してみる①			12	【授業単元】 地域で活躍している人に触れる①				
	【到達目標】 多様な視点から実際にまちを歩き、気づきを得る				【到達目標】 地域リーダーとしてまちづくりをしている方から、まちづくりの実践を聞き、考えることができる。改め				
5	【授業単元】 地域共生を意識してまちを見してみる②			13	【授業単元】 地域で活躍している人に触れる②				
	【到達目標】 まち歩きで気づいたことを共有し、深める				【到達目標】 地域リーダーとしてまちづくりをしている方から、まちづくりの実践を聞き、考えることができる。改め				
6	【授業単元】 地域包括支援センターの実際を知り、考える(1)			14	【授業単元】 地域で活躍している人に触れる③				
	【到達目標】 地域包括支援センターで実際を知るゲストをお招きして事例を知ることができる。 事例からの検討課題を受け、学生が考え、自ら答えを導き出すことができる。				【到達目標】 地域リーダーとしてまちづくりをしている方から、まちづくりの実践を聞き、考えることができる。改め				
7	【授業単元】 地域包括支援センターの実際を知り、考える(2)			15	【授業単元】 定期テスト～アウトプットの評価～				
	【到達目標】 導き出した答えを自らの言葉で表現、面前で伝えることができる。 ゲストの方からの総評や学生からの感想を受けて考えの幅を広げることができる				【到達目標】 PowerPointにて8分間の発表を聞き、質問を行い、互いを評価し合うことができるチームでの役割の明確化するので責任の所在を明らかとなる為、成績はチーム評価とする ふりかえりと総評				
8	【授業単元】 中間テスト～地域包括ケアシステム、地域共生社会、重層的支援体制整備事業について～			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは毎回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 概念としては比較的歴史が浅いが、確立している部分や社会へ浸透している面もある。今後、日本の地域社会において重要なキーワード、また国家試験でも今後問われると予想される言葉でもあるので、それらを知識として蓄えることができることを目標とする。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・自分が感じたこと、頭の中にある考えを表現、アウトプットする力をつけること。 ・制度や概念、考え方を自分の言葉で言い換えることができるようになること。									

授 業 概 要

科目名	介護の基本Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	溝畑 剣城		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その機能と役割の概要を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師としての臨床経験を経て、高校(看護科教諭)、看護短大、大学での教育経験をもつ。2017年に大学院に進学し、博士号(介護福祉・ケアマネジメント学)を取得。現在は病院での認知症ケアの実態と自立支援についての研究をおこなっている。授業の中で学習内容に照らし経験を伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】									
『介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ』第2版 中央法規									
・毎日ニュースを見る習慣をつけ、世の中の出来事に関心を持ち、考え、意見を持つことができるようにこころがける。									
コマ	授業計画				授業計画				
1	【授業単元】 ・オリエンテーション(自己紹介、授業の内容と進め方、学習方法) 第1章 介護の基本となる理念・介護の成り立ち				17	【授業単元】 ・介護福祉士の倫理 ・介護福祉士の倫理の実践			
2	【到達目標】 ・授業の概要が理解できる。 ・介護の基本的理念や成り立ちが理解できる。				18	【到達目標】 ・介護福祉士の倫理の概要が理解できる。 ・実践例から倫理の視点を理解できる。			
3	【授業単元】 ・介護を取り巻く状況 ・介護の社会化				19	【授業単元】 ・「日本介護福祉士会」の倫理綱領・介護福祉士の専門性 第4章 自立に向けた支援			
4	【到達目標】 ・社会状況の変化の概要を理解することができる。 ・介護の社会化の動向を理解することができる。				20	【到達目標】 ・介護福祉士の専門性が理解できる。 ・自立支援に向けた具体的支援の考え方が理解できる。			
5	【授業単元】 ・介護の歴史 ・介護サービスの量的拡充				21	【授業単元】 ・ICF ・自立支援とエンパワメント			
6	【到達目標】 ・介護福祉法制定前の社会福祉の概要を知ることができる。 ・サービスの量的拡充の意味を理解することができる。				22	【到達目標】 ・ICFの概要が理解できる。 ・自立支援とエンパワメントの関係が理解できる。			
7	【授業単元】 ・サービスの質的拡充 ・介護福祉の基本理念				23	・生活意欲と活動 ・自立支援とリハビリテーション			
8	【到達目標】 ・サービスの質的拡充のポイントを理解することができる。 ・尊厳を支える介護の視点を理解することができる。				24	【到達目標】 ・生活意欲と活動支援についての概要が理解できる。 ・自立支援におけるリハビリテーションの具体について理解できる。			
9	【授業単元】 ・自立を支える介護 ・尊厳を支える介護				25	【授業単元】 ・リハビリテーションの実際と介護福祉士の役割 ・自立支援と介護予防			
10	【到達目標】 ・自立を支える介護の視点を理解できる。 ・尊厳を支える介護の視点を理解できる。				26	【達成目標】 ・リハビリテーションにおける介護職の関わり方について理解できる。 ・自立支援と介護予防の目的と意義について理解できる。			
11	【授業単元】 ・社会福祉士法及び介護福祉士法 ・社会福祉士法、介護福祉士法における諸規定				27	【授業単元】 ・介護予防の概要 ・介護予防の種類			
12	【到達目標】 ・法の目的と定義の概要を理解する。 ・資格取得についての概要を理解できる。				28	【到達目標】 ・介護予防の概要について知ることができる。 ・介護予防における様々な支援について知ることができる。			
13	【授業単元】 ・介護福祉士の機能と役割 ・地域共生社会・災害時・看取り時の役割				29	【授業単元】 ・介護予防における介護福祉士の役割 ※授業のまとめと定期試験			
14	【到達目標】 ・地域共生社会と介護福祉士の役割の概要を理解できる。 ・災害時、看取り時の役割を理解できる。				30	【到達目標】 ・介護予防における介護福祉士の役割を理解できる。 ※学習を振り返り、今後の授業への課題を見つけることができる。			
15	【授業単元】 ※前半のまとめ・中間試験 ・介護福祉士を支える団体				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
16	【到達目標】 ※前半を振り返り、学習のまとめができる。 ・介護福祉士を支える団体の概要と役割を理解できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日頃より、様々な人々の生活に関心を持つことにより、授業内容をより理解でき									

授 業 概 要

科目名	介護の基本Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	溝畑 剣城		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護福祉の基本となる理念をもとに、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門性を目指す力をつけることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師としての臨床経験を経て、高校(看護科教諭)、看護短大、大学での教育経験をもつ。2017年に大学院に進学し、博士号(介護福祉・ケアマネジメント学)を取得。現在は病院での認知症ケアの実態と自立支援についての研究をおこなっている。授業の中で学習内容に照らし経験を伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ』第2版 中央法規					・毎日ニュースを見る習慣をつけ、世の中の出来事に関心を持ち、考え、意見を持つことができるようにこころがける。				
コマ	授業計画					授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション 第1章 介護を必要とする人の理解・生活の理解				17	【授業単元】 ・リスクマネジメント・介護における医行為 ・介護に於ける事故と法的責任			
2	【到達目標】 ・授業の内容を理解して、学習への関心を持つことができるようになる。 ・生活の基本要素を理解することができる				18	【到達目標】 ・福祉サービスのリスクマネジメントの基本を理解できる。 ・介護福祉士がおこなえる医療行為について理解できる。 ・過誤・事故・苦情の概要を理解できる。			
3	【授業単元】 ・生活の特性 高齢者の暮らし				19	【授業単元】 ・福祉サービスに求められる安全・安心 ・身体拘束			
4	【到達目標】 ・生活の多様性を理解できる。 ・高齢者の暮らしを理解できる。				20	【到達目標】 ・安全・安心の視点を理解できる。 ・身体拘束の概要から対応策を考えることができる。			
5	【授業単元】 障害のある方の生活 ・介護を必要とする人の暮らし				21	【授業単元】 ・感染症・感染症対策の基本的な方法 ・バイタルサインの測定			
6	【到達目標】 ・障害のある方の生活を理解できる。 ・支援を受ける人の思いを理解できる。				22	【到達目標】 ・感染症の基本知識の概要を理解できる。 ・生活の場における健康管理及び感染症の基本的な知識と技術の概要を理解することができる。			
7	【授業単元】 ・家族介護者の理解と支援 第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支える。				23	【授業単元】 第4章 協働する多職種の機能と役割・多職種連携の必要性 ・保健・医療・福祉職			
8	【到達目標】 ・家族介護者の支援について理解できる。 ・地域共生社会と地域ケアシステムの概要を理解できる。				24	【到達目標】 ・多職種と協働する必要性を理解できる。 ・関係する多職種の専門性を理解することができる。			
9	【授業単元】 ・高齢者のためのフォーマルサービス ・生活を支えるインフォーマルサービス				25	【授業単元】 ・多職種連携・協働の実際 第5章 介護従事者の安全・健康管理の重要性			
10	【到達目標】 ・介護保険制度のサービスの概要を知ることができる。 ・インフォーマルサービスの概要を知ることができる。				26	【到達目標】 ・チームづくりの概要を理解することができる。 ・健康管理の重要性を理解することができる。			
11	【授業単元】 ・フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係性 ・地域連携の目的と意義				27	【授業単元】 ・介護従事者を守る法制度 ・介護に従事する人の健康問題			
12	【到達目標】 ・フォーマルサービスとインフォーマルサービスの役割と意義を理解することができる。 ・地域連携の目的と意義を理解することができる。				28	【到達目標】 ・労働基準法、労働安全衛生法の基本の概要を理解する。 ・介護に従事する人の健康問題の概要を理解理解する。			
13	【授業単元】 ・地域連携にかかわる組織と団体の概要を理解できる。				29	【授業単元】 ・心身の健康管理 ・授業のまとめと定期試験			
14	【到達目標】 ・地域連携にかかわる組織と団体の概要を理解できる。 ・地域連携のしない手の概要を知ることができる。				30	【到達目標】 ・心身の健康管理の概要を理解できる。 ・授業を振り返りと、今後の学習方法を明確にすることができる。			
15	【授業単元】 ・前半のまとめ中間試験 第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント ・セーフティマネジメント				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
16	【到達目標】 ・前半を振り返り今後の学習の確認ができる。 ・セーフティマネジメントの考え方を理解できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日頃より、様々な人々の生活に関心を持つことにより、授業内容をより理解できるようにする。									

授業概要

科目名	コミュニケーション技術Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	長尾 洋江		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1.利用者・家族から「話しやすい」「親しみやすい」としてもらえる支援者になるための知識を身につける 2.共に働く仲間の気持ちを理解し、自分の思いを真っ直ぐに伝える技術を身につける 3.国家試験合格に必要なポイントを学ぶ									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
①他者からの援助を必要としている人を目の前にした時、介護福祉職員の私には何ができるのか、何をしてはいけないのかがわかる ②自立(自律)の支援とはどんな支援をいうのかがわかる ③学習した内容を現場で実践できるようになる									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」					①習ったことは当日中に復習をしましょう ②1年生のうちから介護福祉士国家試験過去問題を解く習慣を身につけましよう ③勉強の内容がわからないときは遠慮なく声をかけてください ④生活支援技術の授業で学んだことを復習しておきましょう				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション 授業中のお約束ごとを理解し実践する				9	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践9			
	【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)と対人距離#バイステックの7原則					【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)#対人距離#環境整備#障害に応じたコミュニケーション技法#記録・報告			
2	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの演習その2				10	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践10			
	【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説復習 #挨拶(あいさつ)と対人距離#バイステックの7原則#ラポール形成					【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)#対人距離#環境整備#障害に応じたコミュニケーション技法#記録・報告			
3	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション演習その3				11	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践11			
	【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説復習 #挨拶(あいさつ)と対人距離#バイステックの7原則#ラポール形成#障害に応じたコミュニケーション技法					【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)#対人距離#環境整備#障害に応じたコミュニケーション技法#記録・報告			
4	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの演習4				12	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践12			
	【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)#対人距離#障害に応じたコミュニケーション技法					【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)#対人距離#環境整備#コミュニケーション傾向#障害に応じたコミュニケーション技法#記録・報告			
5	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション演習5				13	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践13			
	【到達目標】 介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)#対人距離#障害に応じたコミュニケーション技法					【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)#対人距離#環境整備#コミュニケーション傾向#障害に応じたコミュニケーション技法#記録・報告			
6	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション演習6				14	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの実践14			
	【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)#対人距離#環境整備と配慮#障害に応じたコミュニケーション技法					【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)#対人距離#環境整備#障害に応じたコミュニケーション技法#記録・報告			
7	【授業単元】 ①授業中のお約束ごとを理解し実践する ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション演習7				15	【授業単元】 ①前期試験 ②国家試験対策 ③授業中のお約束ごとを実践する			
	【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)#対人距離#環境整備と配慮#障害に応じたコミュニケーション技法					【到達目標】 国家試験必出ワードのまとめ			
8	【授業単元】 ①介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 ②挨拶(あいさつ)#対人距離#環境整備と配慮#障害に応じたコミュニケーション技法				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 #介護とは何をすることか#マズローの欲求5段階説 #挨拶(あいさつ)#対人距離#環境整備と配慮#障害に応じたコミュニケーション技法								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	生活支援技術Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	大和田/小野寺/武田		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
・根拠をふまえた生活支援技術を理解・実践することができる。 ・個性を理解し、尊厳の保持や自立支援にむけた介護サービスの準備・提供ができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護老人福祉施設・通所介護サービス等で、介護福祉士として従事している教員が、介護現場の実際を交えながら、利用者の思いに寄り添い生活を支えるための知識・技術を習得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規 最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ					・予習/復習 ・課題提出				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1.2.3	【授業単元】 授業オリエンテーション コミュニケーションの基本				25.26.27	【授業単元】 移動の介護⑤（車いすを使用した外出支援）			
	【到達目標】 生活支援技術という授業の内容、必要性を理解することができる。 利用者への声かけを実践することができる。					【到達目標】 利用者の個性を踏まえ、外出支援方法を理解・実践することができる。			
4.5.6	【授業単元】 環境整備の理解① ベッドメイキング				28.29.30	【授業単元】 身じたくの介護①【着脱介助】（座位/前開き・かぶり）			
	【到達目標】 利用者の尊厳と好みに配慮した、環境整備を行うことができる。 ベッドメイキングの基本を理解・実践することができる。					【到達目標】 着脱介助の原理原則を理解する。 自立に向けた声かけを行いながら、着脱介助を実践することができる。 座位での着脱介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。			
7.8.9	【授業単元】 環境整備の理解② ベッドメイキング 体位名称の理解				31.32.33	【授業単元】 身じたくの介護②【着脱介助】（座位/ズボン）			
	【到達目標】 利用者の尊厳と好みに配慮した、環境整備を行うことができる。 ベッドメイキングの基本を理解・実践することができる。					【到達目標】 着脱介助の原理原則を理解する。 自立に向けた声かけを行いながら、着脱介助を実践することができる。 座位での着脱介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。			
10.11.12	【授業単元】 ボディメカニクスの理解 移動の介護①（水平移動・体位変換）				34.35.36	【授業単元】 身じたくの介護③【着脱介助】（臥位/前開き）			
	【到達目標】 利用者・介護者ともに、負担の少ない体の動かし方を理解・実践することができる。 自立に向けた声かけを行いながら、移動介助を実践することができる。 移動介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた、水平移動/体位変換を実践することができる。					【到達目標】 自立に向けた声かけを行いながら、着脱介助を実践することができる。 臥位での着脱介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。			
13.14.15	【授業単元】 移動の介護②（起き上がり）				37.38.39	【授業単元】 総合演習② 臥位での着脱～起き上がり介助			
	【到達目標】 自立に向けた声かけを行いながら、移動介助を実践することができる。 移動介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた、起き上がり介助を実践することができる。					【到達目標】 事例にもとに、利用者の身体的状況を踏まえた着脱・起き上がりの介助・声かけを考え実践することができる。			
16.17.18	【授業単元】 総合演習① 仰臥位からの起き上がり介助(水平移動→体位変換→起き上がり)				40.41.42	【授業単元】 食事の介護①（口腔体操・自立を助ける自助具・食事の種類/形態）			
	【到達目標】 移動介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた、起き上がり介助を一連で実践することができる。					【到達目標】 食事の意義・目的を理解し、おいしく・安全に食事をするための基本を理解・実践することができる。 食事形態/咀嚼・嚥下力が低下した方への食事について、理解することができる。 自立を助ける自助具の特性を理解することができる。			
19.20.21	【授業単元】 移動の介護③（立ち上がり/杖を使用している利用者の歩行介助） 杖の種類				43.44.45	【授業単元】 食事の介護②（食事介助） 定期テスト			
	【到達目標】 移動介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた、立ち上がり介助を実践することができる。 杖を使用している利用者の、安全と自立に配慮した歩行介助を理解・実践することができる。 福祉用具(杖)を活用する意義・目的を理解し、種類/使用方法を理解することができる。					【到達目標】 食事介助の基本を理解し、自立に向けた声かけを行いながら、おいしく・安全な食事介助を実践することができる。			
22.23.24	【授業単元】 移動の介護④（安全に車いす走行する介助方法） 車いすの種類と使用方法、基本的構造 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 車いすの種類と使用方法、基本的構造を理解することができる。 安心/安全に車いす走行する介助方法を理解・実践することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護実習室は“利用者のお部屋”という認識のもと使用し、使用時のルールを事前に十分理解したうえで受講すること。 「介護の基本」「こころからだのしくみ」で学んだ知識が、技術習得にはとても重要です。関連性を十分に理解して受講すること。									

授業概要

科目名	生活支援技術Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	大和田/小野寺/武田		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
・根拠をふまえた生活支援技術を理解・実践することができる。 ・個性を理解し、尊厳の保持や自立支援にむけた介護サービスの準備・提供ができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護老人福祉施設・通所介護サービス等で、介護福祉士として従事している教員が、介護現場の実際を交えながら、利用者の思いに寄り添い生活を支えるための知識・技術を習得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規 最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ					・予習/復習 ・課題提出				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1.2.3	【授業単元】 身じたくの介護④【口腔ケア】 (ブラッシング・口腔清拭法・義歯の種類/注意点)				25.26.27	【授業単元】 入浴・清潔保持の介護③ (臥位での洗髪介助)			
	【到達目標】 口腔ケアの意義・目的・効果を理解することができる。 口腔ケア介助の基本を理解し、利用者の身体的状況に合わせた介助を実践することができる。 義歯の種類・取り扱い時の注意点について理解することができる。					【到達目標】 洗髪の意義・目的を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。 臥位での洗髪介助の基本を理解し、安楽で爽快感のある介助を実践することができる。			
4.5.6	【授業単元】 総合演習③				28.29.30	【授業単元】 移動の介護⑥【移乗】 (車いすベッド/一部介助) 移乗を助ける福祉用具(スライディングボード)			
	【到達目標】 前期を通して学んだ技術・知識の確認。 事例にもとづいて、生活場面と利用者の身体的状況を踏まえた介助・声かけを考え実践することができる。					【到達目標】 自立に向けた声かけを行いながら、移乗介助を実践することができる。 移乗介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた安全な介助を実践することができる。 利用者の身体状態に応じた福祉用具(スライディングボード)の使用方法・注意点を理解し、安全な移乗介助を実践することができる。			
7.8.9	【授業単元】 排泄の介護① (トイレ介助) 心身の状態・状況に応じた排泄方法				31.32.33	【授業単元】 移動の介護⑦【移乗】 (車いすベッド/半介助～全介助)			
	【到達目標】 排泄の意義・目的を理解し、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した介助を実践することができる。 自立に向けた声かけを行いながら、排泄介助を実践することができる。 利用者の心身の状態・状況に応じた排泄方法/福祉用具について理解することができる。					【到達目標】 自立に向けた声かけを行いながら、移乗介助を実践することができる。 移乗介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた安全な介助を実践することができる。			
10.11.12	【授業単元】 排泄の介護② (臥位/おむつ交換) おむつの種類とモデルを使った排泄・吸水実験				34.35.36	【授業単元】 休息・睡眠の介護 (睡眠・部分浴/足浴) 安楽体位の基本と褥瘡予防のポイント			
	【到達目標】 排泄の意義・目的を理解し、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した介助を実践することができる。 自立に向けた声かけを行いながら、排泄介助を実践することができる。					【到達目標】 睡眠の意義・目的を理解し、より良い睡眠を支える技術・知識を習得することができる。 部分浴の効果を理解し、基本的技術を実践することができる。 安楽体位の基本を理解し、安全で安楽な姿勢保持の介助を実践することができる。			
13.14.15	【授業単元】 入浴・清潔保持の介護① (機械浴/浴後のケア) 入浴の効果とリスクについて				37.38.39	【授業単元】 人生の最終段階における介護 (終末期ケア) 身じたくの介護⑧ (臥位/浴衣)			
	【到達目標】 入浴の意義・目的を理解し、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した介助を実践することができる。 自立に向けた声かけを行いながら、入浴介助を実践することができる。 気化熱現象の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。					【到達目標】 個別性に合わせた終末期ケア/介護福祉職のあり方・役割について理解することができる。 臥位での浴衣の着付け方の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。			
16.17.18	【授業単元】 入浴・清潔保持の介護② (機械浴/浴後のケア)				40.41.42	【授業単元】 移動の介助⑧ (上方移動/スライディングシート) 総合演習⑤ 起き上がり介助から、ベッド→車いすへの移乗介助/全介助			
	【到達目標】 入浴の意義・目的を理解し、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した介助を実践することができる。 自立に向けた声かけを行いながら、入浴介助を実践することができる。 気化熱現象の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。					【到達目標】 利用者の身体状態に応じた福祉用具(スライディングシート)の使用方法・注意点を理解し、安全な移動介助を実践することができる。 事例にもとづいて、利用者の身体的状況を踏まえた介助・声かけを考え実践することができる。			
19.20.21	【授業単元】 総合演習④ 入浴後の介助 全身清拭				43.44.45	【授業単元】 総合演習⑥ 技術確認テスト 定期テスト			
	【到達目標】 事例にもとづいて、利用者の身体的状況を踏まえた介助・声かけを考え実践することができる。 入浴以外に清潔を保つ方法とその注意点を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。					【到達目標】 前/後期を通して学んだ技術・知識の確認 事例にもとづいて、利用者の身体的状況を踏まえた介助・声かけを考え実践することができる。			
22.23.24	【授業単元】 身じたくの介護⑤【整容】 (爪切り・整髪・髭剃り) 医療行為に該当しないケアについて 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 利用者の個性を理解し、尊厳を保持した整容方法を理解・実践することができる。 医療行為に当たらない、ケアを知ることができる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護実習室は"利用者のお部屋"という認識のもと使用し、使用時のルールを事前に十分理解したうえで受講すること。 「介護の基本」J「こととからだのしくみ」で学んだ知識が、技術習得にはとても重要です。関連性を十分に理解して受講すること。									

授 業 概 要

科目名	介護過程Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	田中 静香		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・介護福祉職として必要な介護過程における思考過程を理解・習得・実践することができる。 ・利用者本位の介護実践を根拠に基づき提供するための介護計画の立案・実践をする力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
特別養護老人ホームにて介護福祉士・ショートステイ相談員・実習指導者として従事している教員が介護福祉職として介護実践に必要な思考過程について、介護現場の実際を交えながらグループワークや講義を通じて、介護過程を理解する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程【第2版】 (中央法規出版)					・課題提出 ・他の科目で学んだことを活かせるよう、振り返る(復習する)機会を設ける				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション(講師自己紹介、レクリエーション)				9	【授業単元】 アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)②			
	【到達目標】 レクリエーションを活用し、介護過程を学ぶ上で必要な要素を理解することができる。					【到達目標】 ・情報収集で得た内容を統合する必要性を理解することができる。 ・利用者本位の視点を忘れずに情報を整理するための方法を理解することができる。			
2	【授業単元】 介護過程の概要				10	【授業単元】 アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)③			
	【到達目標】 グループワークを通じて、介護過程に必要な思考過程、手法を体験・理解することができる。					【到達目標】 ・情報収集で得た内容を統合する必要性を理解することができる。 ・利用者本位の視点を忘れずに情報を整理するための方法を理解することができる。			
3	【授業単元】 介護過程の意義・目的				11	【授業単元】 アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)④			
	【到達目標】 ・介護過程の意義・目的を理解することができる。 ・介護過程の全体像を理解することができる。					【到達目標】 ・情報収集で得た内容を統合する必要性を理解することができる。 ・利用者本位の視点を忘れずに情報を整理するための方法を理解することができる。			
4	【授業単元】 アセスメント(情報収集)①				12	【授業単元】 アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)⑤ アセスメント(生活課題の明確化)①			
	【到達目標】 ・情報収集の必要性、重要性を理解することができる。 ・介護過程における情報とは何かを理解することができる。					【到達目標】 ・情報収集で得た内容を統合する必要性を理解することができる。 ・利用者本位の視点を忘れずに情報を整理するための方法を理解することができる。 ・生活課題を明らかにする必要性について理解することができる。			
5	【授業単元】 アセスメント(情報収集)②				13	【授業単元】 実習Ⅱ-1に向けた取り組み・課題①			
	【到達目標】 ・情報収集の必要性、重要性を理解することができる。 ・介護過程における情報とは何かを理解することができる。					【到達目標】 ・アセスメントシートについて理解することができる。 ・受け持ち利用者の選定、決定方法について理解することができる。			
6	【授業単元】 アセスメント(情報収集)③				14	【授業単元】 実習Ⅱ-1に向けた取り組み・課題②			
	【到達目標】 ・情報収集の必要性、重要性を理解することができる。 ・介護過程における情報とは何かを理解することができる。					【到達目標】 ・アセスメントシートについて理解することができる。 ・実習における情報収集の視点、ポイントを理解することができる。			
7	【授業単元】 アセスメント(情報収集)④				15	【授業単元】 定期試験 前期授業の振り返り			
	【到達目標】 ・情報収集の必要性、重要性を理解することができる。 ・介護過程における情報とは何かを理解することができる。					【到達目標】 ・前期の授業を振り返り、後期の学びに繋げることができる。			
8	【授業単元】 アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)① 中間テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・情報収集で得た内容を統合する必要性を理解することができる。 ・利用者本位の視点を忘れずに情報を整理するための方法を理解することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護過程の展開は介護福祉職には欠かせないスキルであることを理解し、受講してください。 介護過程では他の科目で得た知識・技術も重要となります。本科目以外の科目での学びも関連付けて活かせるよう、意識をもって受講してください。									

授業概要

科目名	介護過程Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	田中 静香		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・介護福祉職として必要な介護過程における思考過程を理解・習得・実践することができる。 ・利用者本位の介護実践を根拠に基づき提供するための介護計画の立案・実践をする力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
特別養護老人ホームにて介護福祉士・ショートステイ相談員・実習指導者として従事している教員が介護福祉職として介護実践に必要な思考過程について、介護現場の実際を交えながらグループワークや講義を通じて、介護過程を理解する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程【第2版】 (中央法規出版)					・課題提出 ・他の科目で学んだことを活かせるよう、振り返る(復習する)機会を設ける				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 実習Ⅱ-1に向けた取り組み・課題③				9	【授業単元】 実習Ⅱ-1を終えての課題と取り組み①			
	【到達目標】 ・アセスメントシートについて理解することができる。 ・実習における情報収集の視点、ポイントを理解することができる。					【到達目標】 ・介護過程を展開する意義・目的を理解することができる。 ・介護実習Ⅱ-1にて得た経験を活用し、実際の介護過程の展開に発展させることができる。 ・発表に向けた資料作成を作成することで、他者へ伝える力を養うことができる。			
2	【授業単元】 実習Ⅱ-1に向けた取り組み・課題④				10	【授業単元】 実習Ⅱ-1を終えての課題と取り組み②			
	【到達目標】 ・アセスメントシートについて理解することができる。 ・実習における情報収集の視点、ポイントを理解することができる。					【到達目標】 ・介護過程を展開する意義・目的を理解することができる。 ・介護実習Ⅱ-1にて得た経験を活用し、実際の介護過程の展開に発展させることができる。 ・発表に向けた資料作成を作成することで、他者へ伝える力を養うことができる。			
3	【授業単元】 実習Ⅱ-1に向けた取り組み・課題⑤				11	【授業単元】 実習Ⅱ-1を終えての課題と取り組み③			
	【到達目標】 ・アセスメントシートについて理解することができる。 ・実習における情報収集の視点、ポイントを理解することができる。 ・前期の授業で学んだ介護過程に関する思考過程の復習。					【到達目標】 ・介護過程を展開する意義・目的を理解することができる。 ・介護実習Ⅱ-1にて得た経験を活用し、実際の介護過程の展開に発展させることができる。 ・発表に向けた資料作成を作成することで、他者へ伝える力を養うことができる。			
4	【授業単元】 実習Ⅱ-1を終えての振り返りと今後の課題 アセスメント(生活課題の明確化)② 介護計画の立案①				12	【授業単元】 実習Ⅱ-1を終えての課題と取り組み④			
	【到達目標】 ・授業で学んだことと実習で経験したことを振り返り、整理をすることができる。 ・生活課題を明らかにする必要性について理解することができる。 ・個別ケア提供における介護計画の意義を理解することができる。					【到達目標】 ・介護過程を展開する意義・目的を理解することができる。 ・介護実習Ⅱ-1にて得た経験を活用し、実際の介護過程の展開に発展させることができる。 ・発表に向けた資料作成を作成することで、他者へ伝える力を養うことができる。			
5	【授業単元】 介護計画の立案②				13	【授業単元】 実習Ⅱ-1を終えての事例発表①			
	【到達目標】 ・個別ケア提供における介護計画の意義を理解することができる。 ・介護計画における介護目標の設定方法を理解することができる。 ・介護計画の立案方法について理解することができる。					【到達目標】 ・介護実習Ⅱ-1にて得た経験を活用し、実際の介護過程の展開に発展させることができる。 ・自身が経験したことを他者に発表することで、情報の共有と手法のスキルアップをすることができる。 ・他者の発表を聞くことで、新たな視点に気づくことができる。			
6	【授業単元】 介護過程における『実施』				14	【授業単元】 実習Ⅱ-1を終えての事例発表②			
	【到達目標】 ・介護過程における『実施』の意義を理解することができる。 ・実施における留意点を理解することができる。					【到達目標】 ・介護実習Ⅱ-1にて得た経験を活用し、実際の介護過程の展開に発展させることができる。 ・自身が経験したことを他者に発表することで、情報の共有と手法のスキルアップをすることができる。 ・他者の発表を聞くことで、新たな視点に気づくことができる。			
7	【授業単元】 介護過程における『評価』				15	【授業単元】 実習Ⅱ-1を終えての事例発表③ 定期試験			
	【到達目標】 ・介護過程における『評価』の意義を理解することができる。 ・評価の内容及方法を理解する。 ・個別ケアにおける評価の重要性を理解する。					【到達目標】 ・介護実習Ⅱ-1にて得た経験を活用し、実際の介護過程の展開に発展させることができる。 ・自身が経験したことを他者に発表することで、情報の共有と手法のスキルアップをすることができる。 ・他者の発表を聞くことで、新たな視点に気づくことができる。 ・前期、後期に学んだ介護過程における思考過程の再確認。			
8	【授業単元】 介護過程における展開、チームアプローチ 中間テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・介護過程を展開する意義・目的を理解することができる。 ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護過程の展開は介護福祉職には欠かせないスキルであることを理解し、受講してください。 介護過程では他の科目で得た知識・技術も重要となります。本科目以外の科目での学びも関連付けて活かせるよう、意識をもって受講してください。									

授業概要

科目名	介護総合演習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	岡 賢子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護実習の意義・目的を理解し、主体的に実習に取り組む態勢を整えることができる。 各領域での学び(知識と技術)を統合し、介護過程に基づいた介護実践のあり方を考えることができる。 実習施設での利用者の生活・介護職員の役割・職員間の連携・施設の果たす役割が理解できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士や看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院等における介護を必要とする方への実務経験を活かして介護福祉士資格を有するための介護実習の目的や意義について教授し、介護過程の実践に向けて個々の学生がグループワークや発表などで理解を深められる授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
実習と記録(JESC)					介護実習に必要な文章の作成は個人ワークで進める。読み書きの力と共に考えて文章を作る力を養うため、日ごろから多くの文書に触れることを意識する。				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 介護実習とは 介護実習の目的と意義について			9	【授業単元】 デイサービス実習の振り返り 実習記録の確認				
	【到達目標】 介護福祉士の資格を有するために必要な介護実習の目的と意義を理解することができる。 利用者の生活で介護福祉士が担う役割について考えることができる。				【到達目標】 デイサービス実習を振り返り、施設実習に向けて準備すべき知識や技術を考えることができる。 実習記録に必要な内容を整えて、完成することができる。				
2	【授業単元】 利用者の生活の場とは 介護実習の種類と実習の内容について デイサービス実習の準備			10	【授業単元】 介護実習Ⅱの施設実習について				
	【到達目標】 利用者を生活者として捉え、様々な生活の場を考えた介護実習の種類と内容、施設の種別について理解することができる。 実習のために必要な身構え、気構え、心構えの必要性を理解することができる。				【到達目標】 施設実習の目的と目標を確認し、介護過程の展開に向けた利用者理解の必要性を理解することができる。				
3	【授業単元】 利用者を理解するための介護福祉士の関わりについて 実習に必要な記録物の意義と必要性			11	【授業単元】 介護実習Ⅱの施設の理解 介護実習Ⅱで出会う利用者の利用者像と必要な介護 介護実習Ⅱに必要な記録物の確認				
	【到達目標】 介護福祉士の資格を有するために必要な介護実習の目的と意義を理解することができる。 デイサービス実習で出会う利用者の利用者像をイメージし、介護福祉士が担う役割について考えることができる。 実習に必要な記録物について理解し、実習生紹介書に含むべき内容を理解し準備できる。				【到達目標】 利用者の生活や環境に関心を持ち、関わりを通して心身の状態を理解することの必要性を 考えることができる。 日々の介護実践の考察の方法を理解し、介護過程の思考過程をイメージすることができる。				
4	【授業単元】 介護実習で必要な知識と技術について 利用者を理解するためのコミュニケーション 利用者を支援するために必要な知識と技術			12	【授業単元】 介護実習Ⅱに行くための準備① 介護実習Ⅱの目的目標について 事前訪問とオリエンテーション日程の確認について				
	【到達目標】 高齢者とのコミュニケーションについて理解し、利用者の生活を知り理解するための方法を 考えることができる。				【到達目標】 事前訪問とオリエンテーション日程を確認することができる 個々の実習目標を行動レベルで考え、文章化することができる				
5	【授業単元】 実習に行くための準備① デイサービス実習の目的と目標について 個々の実習目標の立て方			13	【授業単元】 介護実習Ⅱに行くための準備② 利用者の安全・安楽を考える 介護福祉士の責務と職責				
	【到達目標】 デイサービス実習の目的を理解し、到達すべき目標を達成するために必要なこと具体的に考 えることができる。 個々の実習目標を行動レベルで立てることができる。				【到達目標】 介護を学ぶ学生として、利用者の安全・安楽を考慮した介護実践について考えることができる 介護福祉士の責務と職責、職業倫理を考えることができる。				
6	【授業単元】 実習に行くための準備② 事前訪問とオリエンテーション日程の確認について 実習目標の文章化			14	【授業単元】 介護実習Ⅱに行くための準備③ 介護福祉士の報告・連絡・相談について 介護福祉士の仕事の範囲について				
	【到達目標】 オリエンテーション日程を施設に確認することができる。 実習目標を文章化して準備することができる。				【到達目標】 実習において自己の所在や行動を明らかにすることの必要性を理解することができる。 チームで介護をする上で必要な報告・連絡・相談のあり方と必要性を理解することができる。 介護福祉士の仕事の範囲を理解し、多職種連携について理解することができる。				
7	【授業単元】 実習に行くための準備③ 実習に必要な身だしなみ、マナー、健康管理の確認 実習記録、日誌の書き方			15	【授業単元】 カンファレンスの意義・目的 前期の学習の知識確認と振り返り				
	【到達目標】 介護福祉士として求められる身だしなみやマナー、自己の健康管理の必要性を理解し、準備、 実践することができる。 利用者の反応に応じて、基本的な態度で話を聴くコミュニケーション技術を確認することがで きる。 実習に関する記録の必要性を理解し、整えることができる。				【到達目標】 カンファレンスの意義・目的を理解し、模擬カンファレンスを通して、介護福祉士の持つべき視 点、必要な知識、技術を考えることができる。				
8	【授業単元】 デイサービス実習で必要な知識と技術 実習前の知識確認と振り返り			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 実習でよりよく学ぶための準備をし、必要な知識と技術について確認することができる。 実習前に必要な実習に関する知識を確認することができる。 利用者及び職員に自分から適切な挨拶をする必要性を理解し行動に移す準備ができる。 利用者の反応に応じて、基本的な態度で話を聴くコミュニケーション技術を確認することがで きる。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護実践に必要な知識と技術が統合される科目です。すべての科目が介護実践＝介護実習につながっていることを意識し、専門職としての態度や姿勢、介護観についても主体的に考えて欲しいと考えている。									

授業概要

科目名	介護総合演習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	岡 賢子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護実習の意義・目的を理解し、主体的に実習に取り組む態勢を整えることができる。 各領域での学び(知識と技術)を統合し、介護過程に基づいた介護実践のあり方を考えることができる。 実習施設での利用者の生活・介護職員の役割・職員間の連携・施設の果たす役割が理解できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士や看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院等における介護を必要とする方への実務経験を活かして介護福祉士資格を有するための介護実習の目的や意義について教授し、介護過程の実践に向けて個々の学生がグループワークや発表などで理解を深められる授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
実習と記録(JESC)					介護実習に必要な文章の作成は個人ワークで進める。読み書きの力と共に考えて文章を作る力を養うため、日ごろから多くの文書に触れることを意識する。				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 事例検討・模擬カンファレンス			9	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム実習の目的・目標について				
	【到達目標】 模擬カンファレンスを通して、介護福祉士の持つべき視点、必要な知識、技術を考えることができる。				【到達目標】 認知症高齢者グループホーム実習の目的・目標を確認し、自己の実習目標を文章化することができる。				
2	【授業単元】 介護実習Ⅱに行くための準備④ 介護実習Ⅱに必要な記録物を整える			10	【授業単元】 障害者施設における施設の役割と介護福祉士の役割、地域とのつながりについて				
	【到達目標】 介護実習Ⅱに必要な記録物について理解し、準備を整えることができる。				【到達目標】 障害者施設における施設の役割や介護福祉士の役割を理解し、地域とのかかわりにおける介護福祉士の役割についても考えることができる。				
3	【授業単元】 介護実習Ⅱの振り返り			11	【授業単元】 障害者施設における利用者の生活について 障害者施設実習の目的・目標について				
	【到達目標】 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる				【到達目標】 障害者施設で生活する利用者の生活について理解し、具体的な関わりについて考えることができる。 障害者施設実習の目的・目標を確認し、自己の実習目標を文章化することができる。				
4	【授業単元】 訪問介護を受ける利用者の生活について考える①			12	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム・障害者施設実習に行くための準備① 事前訪問とオリエンテーション日程の確認について				
	【到達目標】 在宅サービスを受ける利用者、家族、地域の関係について理解し、考えることができる。				【到達目標】 事前訪問とオリエンテーション日程を確認することができる 個々の実習目標を行動レベルで考え、文章化することができる				
5	【授業単元】 訪問介護を受ける利用者の生活について考える②			13	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム・障害者施設実習に行くための準備② 今までの実習から考えられる自己の課題について				
	【到達目標】 事例を通して訪問介護の実際について考え、理解することができる。				【到達目標】 今までの実習の経験から考えられる自己の課題を明確化し、今回の実習でどのように行動していくのかを具体的に考え、他者と共有することができる。				
6	【授業単元】 訪問介護を受ける利用者の生活について考える③			14	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム・障害者施設実習に行くための準備③ 実習に行く前につけておきたい力は何か考える				
	【到達目標】 事例を通して訪問介護の実際について考え、理解することができる。				【到達目標】 実習に臨むにあたり自分に必要な力は何かを考え、それをどのようにして身に付けて行くのかを具体的に考え、他者と共有することができる。				
7	【授業単元】 認知症高齢者グループホームにおける施設の役割と介護福祉士の役割 地域とのつながりについて			15	【授業単元】 介護総合演習Ⅰまとめ				
	【到達目標】 認知症高齢者グループホームにおける施設の役割や介護福祉士の役割を理解し、地域とのかかわりにおける介護福祉士の役割についても考えることができる。				【到達目標】 介護総合演習で学んだ知識を確認し、振り返ることができる。				
8	【授業単元】 認知症高齢者グループホームにおける利用者の生活について			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 認知症高齢者グループホームで生活する利用者の生活について理解し、具体的な関わりについて考えることができる。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護実践に必要な知識と技術が統合される科目です。すべての科目が介護実践＝介護実習につながっていることを意識し、専門職としての態度や姿勢、介護観についても主体的に考えて欲しいと考えている。									

授 業 概 要

科目名	介護総合演習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	集中	担当 教員	岡 賢子・茂木 茜・小倉健吾		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	64 時間
【授業を通じての到達目標】									
利用者の生活とはどのようなものかを事前に理解し、行動目標を作成できるようになるとともに必要な介護技術を習得する。 介護過程の展開との関係性を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保健福祉医療分野において利用者個々の状態や状況に応じた実践を経験し、介護教員としての指導経験をもつ教員が、介護過程の実践に向けて、学生個々の状況を把握し、理解を深める授業をグループワークや発表を用いて実践し、学生の力を向上させる授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
実習と記録(JESC)					介護記録は文字を中心におこなう。よって書くことや読むこと、文字から想像できる力が必要となる。日頃から読む力や書く力、想像する力を養ってほしい。				
授業計画									
1. 通所介護事業所における実習目標の確認(1) 2. 通所介護事業所における実習目標の確認(2) 3. 通所介護事業所における実習目標の確認(3) 4. 実習目標の学生相互確認からの動機づけ 5. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(1) 6. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(2) 7. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(3) 8. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(4) 9. 通所介護事業所における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(1) 10. 通所介護事業所における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(2) 11. 介護老人福祉施設等の実習における具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(1) 12. 介護老人福祉施設等の実習における具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(2) 13. 介護老人福祉施設等における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(1) 14. 介護老人福祉施設等における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(2) 15. 介護老人福祉施設等における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(3) 16. 介護老人福祉施設等における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(4) 17. 実習全体を振り返り、次の実習に向けての目標につなげる学び(1) 18. 実習全体を振り返り、次の実習に向けての目標につなげる学び(2) 19. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習目標の確認(1) 20. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習目標の確認(2) 21. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習目標の確認(3) 22. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(1) 23. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(2) 24. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(3) 25. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習の再確認(1) 26. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習の再確認(2) 27. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習の振り返り(1) 28. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習の振り返り(2) 29. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習の振り返り(3) 30. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における介護実践の科学的探究につなげる学び(1) 31. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における介護実践の科学的探究につなげる学び(2) 32. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における介護実践の科学的探究につなげる学び(3)									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
・実習で学んできたものを分析理解できるように書き残して、記録の学びにもつなげていけるよう心がけてほしいと考えている。					講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1／2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				

授 業 概 要

科目名	介護実習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	1	単位	総時間数	24	時間
デイサービス											
【授業を通じての到達目標】											
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
実習に臨む姿勢を修得し、比較的要介護度の低い利用者のいる通所介護事業所等において、利用者の望む生活とはどのようなものか、利用者の言葉として捉える学び。学びを記録に残し、他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びとする。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 実習に望む姿勢を修得できる。利用者の望む生活とはどのようなものか理解できる。利用者の言葉として捉えるコミュニケーションの展開と実践ができる。学びを記録に残すことができる。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習と記録（JESC）						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
ア 実習生として実習に望む姿勢を学ぶことができる イ 利用者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる ウ 利用者の望む生活と環境を理解できる エ 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる オ 学びを記録することができる カ 在宅における多職種協働の実際を知り、利用者の生活を支えるしくみを知る											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
介護福祉士倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習評価表、実習日誌記載内容及び巡回指導時の指導内容で評価 可以上（60点以上）を合格とする。 ※実習Ⅰ（デイ・訪問）で1単位とする。					

授 業 概 要

科目名	介護実習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	144	時間
グループホーム・障害者施設											
【授業を通じての到達目標】											
[授業の目的・ねらい]（認知症高齢者グループホーム・障害者施設等） 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
利用者の主たる生活の場（認知症高齢者グループホーム・障害者施設等）で利用者の生活の状況を学ぶ。利用者の1日の生活のサイクルを体験し、生活の連続性について学び、介護福祉士の役割を体験的に学ぶ。学びは記録に残し、他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びとする。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習と記録（JESC）						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
ア 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等の利用者が望む生活と生活状況を知る イ 小規模な集団における認知症高齢者の生活を知る ウ 障害のある利用者の障害を理解し、今の生活を理解する エ 生活の連続性について知る オ 介護福祉士の役割を知る エ 学びを記録することができる オ 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる カ 利用者の生活を支える多職種を知り、多職種協働の理解を深める											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
介護福祉士倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習評価表、実習日誌記載内容及び巡回指導時の指導内容で評価 可以上（60点以上）を合格とする。					

授 業 概 要

科目名	介護実習Ⅱ（施設実習Ⅰ）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	3	単位	総時間数	136	時間
【授業を通じての到達目標】											
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。											
本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
施設利用者の生活の場を知り、利用者への理解を深め、利用者の思いを実現する学びとする。ICFの視点にもとづき、利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する学びとする。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習と記録（JESC）						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
ア 施設の役割を確認する学び イ 施設と利用者・家族・地域との連携関係を学ぶ ウ 施設利用者の生活の場を知る エ 利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する オ 利用者の思いを実現する具体的な方法論を知る カ 介護過程（情報収集～情報分析まで）を展開できる キ 生活の連続性について知る ク 介護福祉士の役割を知る ケ 学びを記録することができる コ 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
介護福祉士倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの６段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	発達と老化の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	押山乃里子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な知識を習得する。									
【学習内容】									
看護・介護領域で臨床経験を積んだ看護師が、人間の、成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化と、ライフサイクルに応じた各段階の特徴を伝え、その知識を生活支援に活かし、利用者の状況に応じた適切な支援を行うことのできる介護福祉士の養成を目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版株式会社 最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 第2版 他									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション / 医療連携 P294 高齢者とは 【到達目標】 連携の必要性を理解することができる 自分の持つ高齢者はのイメージを知る				9	【授業単元】 高齢者と健康⑥ 悪性新生物、感染症 精神 その他 P265 【到達目標】 高齢者に多い悪性新生物、感染症の症状、精神疾患などの生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。			
2	【授業単元】 高齢者と健康① 高齢者に多い症状・疾患の特徴 P196 骨関節系の疾患と症状、生活の留意点 P202 【到達目標】 高齢者の症状や疾患の特徴について理解することができる 高齢者に特有な症候について理解することができる 高齢者に多い骨関節系の疾患と症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。				10	【授業単元】 高齢者と健康⑦ 高齢者に多い症状・疾患の特徴 P281 【到達目標】 高齢者に多い熱中症、脱水、貧血などの生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。			
3	【授業単元】 高齢者と健康② 脳・神経系、皮膚・感覚器系 P217 【到達目標】 高齢者に多い脳・神経系、皮膚・感覚器系疾患と症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。					【授業単元】 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活① P110 恒常性、予備力、回復力、適応力、防御力に関する変化 フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア 【到達目標】 加齢に伴う生理機能の低下について学び、日常生活への影響を理解する。			
4	【授業単元】 高齢者と健康③ 循環器系・呼吸器系 P228 【到達目標】 高齢者に多い循環器系、呼吸器系疾患の症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。				1 1 / 1 2 / 1 3	【授業単元】 1 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活② P118 骨格系、筋系、脳・神経系、感覚器系、血液循環器系、呼吸器系、消化器系、腎泌尿器系、生殖系系、内分泌・代謝系、免疫系 【到達目標】 2 加齢に伴う身体機能の低下について学び、日常生活への影響を理解する。			
5	【授業単元】 高齢者と健康④ 消化器系、腎泌尿器系 P236 【到達目標】 高齢者に多い消化器系、腎泌尿器系の症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。					【授業単元】 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活③ P143 心理的な変化と生活への影響 知覚機能、記憶機能、知的機能、パーソナリティの変化 【到達目標】 老化による知覚機能、認知機能の変化について理解し、生活への影響を理解する。老化による知的機能とパーソナリティの変化について理解し、生活への影響を理解する。			
6	【授業単元】 高齢者と健康⑤ 内分泌・代謝系、歯・口腔 P251 【到達目標】 高齢者に多い内分泌・代謝系、歯・口腔の症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。				14	【授業単元】 前期を通して学んだ内容を振り返り、知識を確認する。 期末試験対策、まとめ。 【到達目標】 前期で学んだ内容を確認し、人の成長発達について考え、高齢者の特徴を理解した生活支援を実践する知識を身につけることができる。			
7	【授業単元】 高齢者に多い症状・疾患の特徴についての知識を確認する。中テスト対策、まとめ。 【到達目標】 今まで学んだ高齢者に特有な症候についての知識と理解を確認することができる				15	【授業単元】 前期を通して学んだ内容を振り返り、知識を確認する。 期末試験の実施 【到達目標】 前期で学んだ内容を確認し、老年期に多い疾患と症状、老化に伴う心と体の変化を理解した生活支援を実践する知識を身につけることができる。			
8	【授業単元】 老年期に多い疾患と症状の知識を確認する。中テストの実施。 今まで学んだ、老年期に多い疾患と症状の知識を生活との関連性から考え、介護実践の留意点を理解する。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 ・授業態度、グループワークへの参加状況も評価対象となる				
【履修に当たっての心構え・留意点】 人の成長過程、ライフサイクルにおける高齢者の心理的、精神的変化とそれに伴う、課題や特徴を学びます。概念や理論など、アカデミックに考える部分と、高齢者を一人の人間と捉え、その人生に寄り添う想像力を持って学習しましょう。									

授業概要

[illegible]

授業概要

科目名	認知症の理解 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	萩原直美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な学習を通して、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供することができるようになるために必要な知識を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師としての一般病棟・救急及び手術室・療養型病床における様々な状態像を対象とした臨床経験と地域の介護支援専門員としての実務経験をもつ担当教員が、認知症の人の暮らしをイメージできるような授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 第2版 (中央法規)					授業予定の教科書部分に事前に目を通して予習をしておくこと。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 《オリエンテーション》 【第1章 認知症の基礎的理解(第1節 現状と今後・第2節 認知症とは)】			9	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第4節 診断と重症度)】				
	【到達目標】 ・認知症高齢者数の推移を説明することができる。 ・認知症の定義と診断基準を説明することができる。 ・認知症の特徴を説明することができる。				【到達目標】 ・認知症の診断基準について説明することができる。 ・認知機能の評価方法について説明することができる。 ・認知症の重症度判定について説明することができる。				
2	【授業単元】 【第1章 認知症の基礎的理解 (第4節 認知症の人の心理)】			10	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第5節 原因疾患と症状)】				
	【到達目標】 ・認知症の人のこころの理解のために大切なことが述べられる。 ・不安や喪失感について説明することができる。				【到達目標】 ・認知症の原因疾患の病態について説明することができる。 ・認知症の原因疾患による症状の違いについて説明することができる。				
3	【授業単元】 【第1章 認知症の基礎的理解 (第3節 脳のしくみ)】			11	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第6節 治療薬・第7節 予防)】				
	【到達目標】 ・脳の構造と機能について説明することができる。 ・認知症とせん妄、うつとアパシーの違いを説明することができる。 ・老化と認知症の関係を説明することができる。				【到達目標】 ・治療薬の作用機序や副作用、効果の限界を説明することができる。 ・BPSDに用いられる薬の作用と副作用について説明することができる。 ・認知症予防の考え方について述べることができる。				
4	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第1節 中核症状の理解)】			12	【授業単元】 【第3章 認知症ケアの歴史と理念(第1節 認知症の人を取り巻く状況)】				
	【到達目標】 ・中核症状とは何かを説明することができる。 ・代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を説明することができる。				【到達目標】 ・認知症ケアの変遷について説明することができる。 ・認知症施策の流れについて説明することができる。				
5	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第2節 生活障害の理解)】			13	【授業単元】 【第3章 認知症ケアの歴史と理念(第2節 認知症ケアの理念と視点)】				
	【到達目標】 ・認知症の生活障害の重要性について説明することができる。 ・IADL,ADL、参加の生活障害について説明することができる。				【到達目標】 ・認知症ケアの理念と倫理について説明することができる。 ・認知症ケアにおける権利擁護について説明することができる。				
6	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第3節 BPSDの理解)】			14	【授業単元】 【第3章 認知症ケアの歴史と理念(第3節 当事者の視点からみえるもの)】				
	【到達目標】 ・BPSDの定義について説明することができる。 ・BPSDの分類について説明することができる。 ・BPSDの要因(背景因子)について説明することができる。				【到達目標】 ・認知症の人の思いを理解することの重要性を述べることができる。 ・認知症の人の体験が生活に及ぼす影響を説明することができる。 ・認知症の人の想いを尊重したサポート方法について述べることができる。				
7	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第3節 BPSDの理解)】			15	【授業単元】 科目まとめ、振り返り 《定期試験》 《定期試験解答解説》				
	【到達目標】 ・BPSDの誘因について述べることができる。 ・主なBPSDの特徴について説明することができる。				【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。				
8	【授業単元】 第1回授業から第7回授業までのまとめ 《中間試験》			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 ・自分の理解度について確認する ・重要なポイントが確認できる ・今後の学習課題を把握する			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。 その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
認知症を正しく理解し、一人ひとりに寄り添った支援をすることができるようになるために一緒に勉強していきましょう。									

授業概要

科目名	こころとからだのしくみ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	内山 裕美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師として大学病院や介護施設での勤務・大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、人間のこころとからだのしくみを理解する授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版 中央法規出版									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 オリエンテーション 健康とは何か 生命を維持するしくみ 【到達目標】 ・健康とは何かを説明できる ・生命を維持するしくみを説明できる				17・18	【授業単元】 からだのしくみ 消化器系 【到達目標】 ・消化器系の名称とはたらきを説明できる			
3・4	【授業単元】 からだのしくみ 骨・関節・筋肉 【到達目標】 骨・関節・筋肉の名称とはたらきを説明できる				19・20	【授業単元】 食事に関連したこころとからだのしくみ 【到達目標】 ・食事と栄養とは何か説明できる ・食欲・おいしさを感じる(空腹や満腹、食欲に影響する因子の視覚・味覚・嗅覚)しくみを説明できる ・食べるしくみ(咀嚼・嚥下)を説明できる			
5・6	【授業単元】 移動に関連したこころとからだのしくみ 【到達目標】 ・移動の意味、基本的な姿勢や体位保持のしくみを説明できる ・座位、立位保持、歩行のしくみ(重心移動、バランスなどを含む)を説明できる				21・22	【授業単元】 心身の機能低下が食事に及ぼす影響 食事に変化の気づきと対応 【到達目標】 ・食事に関連する機能の低下・障害の原因や機能の低下・障害が及ぼす食事への影響を説明できる ・食事に関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法を説明できる			
7・8	【授業単元】 心身の機能低下が移動に及ぼす影響 移動における変化の気づきと対応 【到達目標】 ・移動に関連した心身の機能低下の原因(麻痺、骨粗鬆症、神経疾患などの病的要因、転倒)を説明できる。 ・機能低下が及ぼす移動への影響(廃用症候群、骨折、褥瘡)を説明できる ・移動に関する観察ポイント、多職種との連携、緊急対応の方法を説明できる				23・24	【授業単元】 こころとからだのしくみ 脳・神経系 【到達目標】 ・脳、神経系の名称とはたらきを説明できる			
9・10	【授業単元】 からだのしくみ 感覚器系 【到達目標】 ①眼・鼻・②爪・毛髪 ③口腔・歯・舌の名称とはたらきを説明できる				25・26	【授業単元】 こころのしくみ 【到達目標】 ・脳とこころのしくみ(学習、記憶、感情、意欲、適応の関係)を説明できる			
11・12	【授業単元】 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 【到達目標】 ・身じたくの意味を説明できる ・顔や口腔、毛髪を清潔に保つしくみを説明できる ・更衣をするしくみを説明できる				27・28	【授業単元】 人間の欲求の基本的理解 自己概念と尊厳 【到達目標】 ・欲求について説明できる ・自己概念、尊厳について説明できる			
13・14	【授業単元】 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 身じたくにおける変化の気づきと対応 【到達目標】 ・機能低下が身じたくに及ぼす影響を説明できる ・身じたくに関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法が説明できる				29・30	【授業単元】 前期の振り返り 定期試験 【到達目標】 ・前期の内容を振り返りながら、知識の再習得ができる			
15・16	【授業単元】 第1～14回までの振り返り 中間試験 【到達目標】 ・第1～14回の内容を振り返りながら、知識の再習得ができる				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 すべての教科につながる授業です。人間のこころやからだに興味を持ちながら、利用者へのケアを安全・安楽に実践することをイメージしながら学習しましょう。									

授業概要

科目名	こころとからだのしくみ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	内山 裕美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する授業を行う									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師として大学病院や介護施設での勤務・大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、人間のこころとからだのしくみを理解する授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版 中央法規出版									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 からだのしくみ 泌尿器系 排泄に関連したこころとからだのしくみ(排尿) 機能低下が排尿に及ぼす影響 【到達目標】 ・泌尿器系の名称とはたらきを説明できる ・排泄の意味、排泄における心理を説明できる ・尿の生成、排尿のしくみ(尿の性状、量、回数含む)を説明できる ・機能低下が排尿に及ぼす影響を説明できる				17・18	【授業単元】 からだのしくみ 血液・リンパ 内分泌系 生殖器系 【到達目標】 ・血液・リンパ、内分泌系、生殖器系の名称とはたらきが説明できる			
3・4	【授業単元】 排泄に関連したこころとからだのしくみ(排便) 機能低下が排便に及ぼす影響 排泄における変化の気づきと対応 【到達目標】 ・便の生成、排便のしくみ(便の性状・量・回数含む)を説明できる ・機能低下が排便に及ぼす影響を説明できる ・排泄に関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法が説明できる				19・20	【授業単元】 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 【到達目標】 ・休息と睡眠のしくみについて説明できる ・機能低下が休息と睡眠に及ぼす影響を説明できる ・休息と睡眠に関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法が説明できる			
5・6	【授業単元】 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 【到達目標】 ・入浴、清潔保持の必要性について説明できる ・皮膚や頭皮の汚れと発汗のしくみが説明できる ・入浴の効果と作用、リラクックス、爽快感を感じるしくみが説明できる				21・22	【授業単元】 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 「死」に対するこころの理解 【到達目標】 ・死のとらえ方を説明できる ・グループワークを通して、相手を尊重した死生観を考えることができる ・「死」に対する恐怖や不安を説明できる			
7・8	【授業単元】 機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 入浴・清潔保持における変化の気づきと対応 【到達目標】 ・機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響を説明できる ・入浴や清潔保持に関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法が説明できる				23・24	【授業単元】 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 終末期における医療職との連携 【到達目標】 ・終末期から危篤時の身体機能の低下の状態を説明できる ・終末期から危篤時に行なわれる医療の実際、観察のポイント、介護の役割と医療との連携が説明できる			
9・10	【授業単元】 からだのしくみ 呼吸器系 【到達目標】 ・呼吸器系の名称とはたらきを説明できる				25・26	【授業単元】 介護福祉職に必要な薬の知識 事例検討 【到達目標】 ・薬の副作用、注意が必要な薬と注意点を説明できる ・事例を通して、観察項目を考えることができる			
11・12	【授業単元】 からだのしくみ 循環器系 【到達目標】 ・循環器系の名称とはたらきを説明できる				27・28	【授業単元】 こころとからだのしくみの知識の再確認 【到達目標】 ・国家試験に必要な知識のポイントを確認できる			
13・14	【授業単元】 からだのしくみのまとめ 【到達目標】 ・脳神経系、消化器系、呼吸器系、循環器系の知識を振り返り、習得知識の確認ができる				29・30	【授業単元】 後期の振り返り 定期試験・解答解説 【到達目標】 ・後期の内容を振り返りながら、知識の再習得ができる			
15・16	【授業単元】 第1～14回までの振り返り 中間試験 【到達目標】 第1～14回の内容を振り返りながら、知識の再習得ができる				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
すべての教科につながる授業です。人間のこころやからだに興味を持ちながら、利用者へのケアを安全・安楽に実践することをイメージしながら学習しましょう。									

授業概要

科目名	文章表現技法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	徳岡健男		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
わかりやすい文章の書き方を学ぶ講座です。文章を論理的に読むための講座です。まず、わかりやすい文章の書き方として相手本位の文章の具体的な書き方を学びます。特に客観と主観を明確にした報告書の具体例を学び、実習前の報告書を書くための準備として有益な講座です。そして、文章を論理的に読むために、起承転結や序論・本論・結論などの組み立てを学び、主旨を正確に読み取る力を養成します。文章の正確な主旨把握、要旨把握は国家試験合格に結びつく力になります。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
サービス業界での実務経験と社会人教育・専門学校教育での教員経験をもつ教員が、論理的でわかり易い文章の書き方を指導します。 また、授業実施後には文章を正確に読む力が身につく、実務に必要なわかりやすい文章を書くレベルに到達できる授業です。									
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】					
書名:「日本語練習帳」 岩波新書 大野晋著				日常から文章になじんでほしい。特に新聞記事などを読むことを推奨したい。					
コマ	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 文章の書き方①わかり易い文章のポイント。			9	【授業単元】 報告書作成のために①				
	【到達目標】 実例から、わかり易い文章を考えてみる。				【到達目標】 語彙を増やし表現力をつける。 擬音を用いた文章練習。				
2	【授業単元】 文章の書き方②わかり易い文章のポイント。			10	【授業単元】 報告書作成のために②				
	【到達目標】 「自己PR」「志望動機」を書く。				【到達目標】 語彙を増やし表現力をつける。 擬音を用いた文章練習。				
3	【授業単元】 文章の書き方③わかり易い文章のポイント			11	【授業単元】 報告書作成のために③				
	【到達目標】 「報告書」の書き方を学ぶ。				【到達目標】 語彙を増やし表現力をつける。 擬音を用いた文章練習。				
4	【授業単元】 論理的に文章を読む。①(序論・本論・結論)『わかりやすさの勉強法』			12	【授業単元】 報告書作成のために④				
	【到達目標】 結論に至る流れを理解する。				【到達目標】 要点をまとめる文章の練習 文章要約トレーニング。				
5	【授業単元】 論理的に文章を読む。②(序論・本論・結論)『はやぶさ式思考法』			13	【授業単元】 報告書作成のために⑤				
	【到達目標】 結論に至る流れを理解する。				【到達目標】 要点をまとめる文章の練習 文章要約トレーニング。				
6	【授業単元】 論理的に文章を読む③(序論・本論・結論)『ローマから日本が見える』			14	【授業単元】 報告書作成のために⑥				
	【到達目標】 結論に至る流れを理解する。				【到達目標】 要点をまとめる文章の練習 文章要約トレーニング。				
7	【授業単元】 論理的に文章を読む④「下町ロケット」			15	【授業単元】 期末試験 学習した範囲から出題。				
	【到達目標】 描写から人物像を読み取る。				【到達目標】 解答・解説				
8	【授業単元】 中間試験。学習した範囲から出題。			【成績評価の方法と基準】 筆記試験は授業で確認した知識の定着度(1回～7回)を確認する。8回目～14回についても授業で確認した知識の定着度を確認する。また、各授業の中で小テストを実施し、小テスト40点・定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則の規定に準ずる。					
	【到達目標】 解答・解説								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
文章に親しむ。読み、書きを繰り返すことが文章上達のポイント。									

授 業 概 要

科目名	文章表現技法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	徳岡健男		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
わかりやすい文章の書き方を学ぶ講座です。また、文章を論理的に読むための講座です。まず、わかりやすい文章の書き方として相手本位の文章の具体的な書き方を学びます。特に客観と主観を明確にした報告書の具体例を学び、実習前の報告書を書くための準備として有益な講座です。そして、文章を論理的に読むために、起承転結や序論・本論・結論などの組み立てを学びます。主旨を正確に読み取る力を養成し、文章の正確な主旨把握、要旨把握は国家試験合格に結びつく力になります。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
サービス業界での実務経験と社会人教育・専門学校教育での教員経験をもつ教員が、論理的でわかり易い文章の書き方を指導する。 また、授業実施後には文章を正確に読む力が身につく、実務に必要なわかりやすい文章を書くレベルに到達できる授業である。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
書名:「日本語練習帳」 岩波新書 大野晋著					日常から文章になじんでほしい。特に新聞記事などを読むことを推奨したい。				
コマ	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。			9	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章 理解①				
	【到達目標】 文章の組み立てを理解する。				【到達目標】 第28回介護福祉士過去問題を読む。				
2	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。			10	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章 理解②				
	【到達目標】 文章の組み立てを理解する。				【到達目標】 第29回介護福祉士過去問題を読む。				
3	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。			11	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章 理解③				
	【到達目標】 感想文を書く。わかり易く伝わる文章を意識する。				【到達目標】 第30回介護福祉士過去問題を読む。				
4	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。			12	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章 理解④				
	【到達目標】 感想文を書く。わかり易く伝わる文章を意識する。				【到達目標】 第31回介護福祉士過去問題を読む。				
5	【授業単元】 小論文を書く①論文と作文の違いを学ぶ。			13	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章読理解⑤				
	【到達目標】 情緒が中心となり記述される文書と、理性的な文書の違いを理解する。				【到達目標】 第32回介護福祉士過去問題を読む。				
6	【授業単元】 小論文を書く②課題作文を書く。			14	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章 理解⑥				
	【到達目標】 課題作文提出の準備。 文章全体の組み立てを考える。				【到達目標】 第33回介護福祉士過去問題を読む。				
7	【授業単元】 小論文を書く③下書きを準備する。			15	【授業単元】 期末試験。学習した全範囲から出題。				
	【到達目標】 文章組み立てをチェックし、文章を書いてみる。				【到達目標】 解答・解説				
8	中間試験。課題作文(小論文)の提出。			【成績評価の方法と基準】 1～7回目までは小論文課題の提出で評価(小テスト分20点)。9～14回目までは筆記試験で行なう。筆記試験は授業で確認した知識の定着度を確認する。9～14回目の授業の中で小テストを実施し、小テスト20点(1～7回の小論文課題20と合わせて40点となる)・定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則の規定に準ずる。					
	【到達目標】 解答・解説								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
論理的な文章を読み。論理的な文章を書く。									

授業概要

科目名	介護ICT I	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	高橋 利明		
学科コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉科の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホームにおいて、施設長として介護ロボット導入やICT化に取り組んだ経験をもとに、現在は介護施設のDXコンサルタントとして活動している教員が講義を展開する。授業内容はスマート介護士資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
スマート介護士 公式テキスト(三訂版)					指定科目の学びの内容と本科目の内容を照らし合わせながら取り組むこと。「介護とは何か?」「何をを目指すのか」を常に念頭におきながら参加すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 4/16	【授業単元】 科目オリエンテーション「介護」ってなんだろう①				9 6/25	【授業単元】 ICTや介護ロボットとは何か?①			
	【到達目標】 科目のねらいを理解するKJ法について理解する					【到達目標】 介護ロボットとは何かについて理解することができる ・介護ロボットの定義 ・介護ロボットへの期待			
2 4/23	【授業単元】 介護ってなんだろう②				10 7/2	【授業単元】 ICTや介護ロボットとは何か?②			
	【到達目標】 KJ法を使って介護に対するイメージや知識の広がりを感じることができる					【到達目標】 介護ロボットとは何かについて理解することができる ・介護ロボットの普及と開発 ・どのように導入されるのか?			
3 5/7	【授業単元】 ICTとはなにか?DXとは何か?理解する。				11 7/9	【授業単元】 介護ロボット各論①			
	【到達目標】 介護施設のICT導入事例から、ICT化についてイメージができる。DXとは何かがイメージできる。【H					【到達目標】 重点開発分野について理解する			
4 5/14	【授業単元】 介護業界を取り巻く環境について理解する①				12 7/16	【授業単元】 介護ロボット各論②			
	【到達目標】 介護保険制度について知る。現状と課題について知る。					【到達目標】 重点開発分野について理解する介護ロボットの体験(予定)			
5 5/21	【授業単元】 介護の生産性向上という考え方を理解する①				13 7/23	【授業単元】 介護ロボット各論③			
	【到達目標】 なぜ介護に生産性向上が求められているのか、その背景を理解する					【到達目標】 重点開発分野について理解する介護ロボットの体験(予定)			
6 5/28	【授業単元】 介護業界を取り巻く環境について理解する②				14 7/30	【授業単元】 介護ロボット各論④			
	【到達目標】 ケアテックとは何かを知る。ケアテックの現状と課題について理解する。					【到達目標】 重点開発分野について理解する介護ロボットの体験(予定)			
7 6/4	【授業単元】 介護業界を取り巻く環境について理解する③				15 8/6	【授業単元】 介護ロボットとはなにか?について理解する			
	【到達目標】 スマート介護士資格について理解できる。資格の目的や内容について理解できる。					【到達目標】 介護ロボットの定義、目的普及と開発に関する現状介護ロボットの種類について理解することがで			
8 6/11	【授業単元】 介護業界を取り巻く環境について多方面から理解することができる				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 介護とはどんな仕事なのか? 介護業界が目指す生産性向上とはどんなものか。なぜ取り組む必要があるかを説明することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークや周囲の意見を聞き、または発言し、全員が理解を深めるということを授業の基本スタイルとする。									

授業概要

科目名	介護ICTⅠ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	高橋 利明		
学科コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉科の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホームにおいて、施設長として介護ロボット導入やICT化に取り組んだ経験をもとに、現在は介護施設のDXコンサルタントとして活動している教員が講義を展開する。授業内容はスマート介護士の資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】 スマート介護士 公式テキスト(三訂版)				【授業時間外における学習】 指定科目の学びの内容と本科目の内容を照らし合わせながら取り組むこと。「介護とは何か?」「何をを目指すのか」を常に念頭におきながら参加すること。					
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
18/27	【授業単元】 後期オリエンテーション 【到達目標】 前期内容の確認をすることができ、後期で来るa内容やb内容を理解することができる			911/26	【授業単元】 科学的介護基礎論① 【到達目標】 科学的介護とは何か?について理解する。				
29/3	【授業単元】 介護ICTとは何か?を理解する① 【到達目標】 介護ICTを取り巻く環境を理解する。介護ICT導入のメリットを理解する。			1012/3	【授業単元】 科学的介護基礎論① 【到達目標】 LIFEの現状と課題、今後の工夫の仕方について理解する				
39/10	【授業単元】 介護ICTとは何か?を理解する② 【到達目標】 介護ソフトについて知るビジネスチャット、WEB会議ツール			1112/10	【授業単元】 ケアテック導入の実践理論① 【到達目標】 ケアテックを実際に介護事業所へ導入するための手順を理解する				
410/15	【授業単元】 介護ICTとは何か?を理解する③ 【到達目標】 インカム、ナースコール、勤怠管理システムなど			1212/17	【授業単元】 ケアテック導入の実践理論② 【到達目標】 ケアテックの選定、導入、実践、評価のポイントを理解することができる				
510/22	【授業単元】 介護ICTとは何か?を理解する④ 【到達目標】 デバイス			1312/24	【授業単元】 科学的介護の実践理論① 【到達目標】 科学的介護の実践方法について理解することができる。				
610/29	【授業単元】 介護ICTとは何か?を理解する⑤ 【到達目標】 セキュリティについて			141/7	【授業単元】 科学的介護の実践理論② 【到達目標】 科学的介護実践の課題と今後の展望について理解する				
711/5	【授業単元】 介護ICTとは何か?を理解する 【到達目標】 コスト抑制のポイントについて理解ができるネットワーク環境の重要性について知ることが			151/14	【授業単元】 介護ロボット、ICTについての理解 【到達目標】 介護を取り巻く環境介護ロボット、ICT化の必要性を理解できる介護ロボット、ICTの活用方法につ				
811/19	【授業単元】 介護ICTとは何かについて理解する。 【到達目標】			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】 グループワークや周囲の意見を聞き、または発言し、全員が理解を深めるということを授業の基本スタイルとする。									

授業概要

科目名	ホスピタリティーマインド	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	小倉 健吾		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・自分の行動や思考を授業でのワークを通じて自らを客観的に捉えて考えることができる。 ・学内にとどまらず、実習といった学外の学びの場でも学生として基本的な態度や行動を理解して身に付けることができる。 ・1年間(前期/後期)のホスピタリティーマインドの授業を通じて介護福祉士の基本的な態度や行動を理解して基礎を身に付けることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
・特別養護老人ホーム、有料老人ホームの経験から介護業務全般、職員教育・研修、業務改善等を通して現場における変化を体感、体現してきた。 ・自分を知ることから始めていき、介護を受ける側の立場になって考える視点を養うことができるように心掛けていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜資料をPDFにて提示。					介護において感情や思考の言語化は重要。介護過程や文章表現技法といった科目とも関連することもあるので学んだことを意識して取り組んでほしい。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション			9	【授業単元】 認知能力と非認知能力について①				
	【到達目標】 ・シラバスの全体説明、授業計画、評価方法の知り、確認することができる。 ・クラスでの役割を決めることができる。				【到達目標】 ・認知能力について知ることができる。 ・非認知能力について知ることができる。 ・認知特性について知ることができる。				
2	【授業単元】 自己と他者について①			10	【授業単元】 認知能力と非認知能力について②				
	【到達目標】 ・学校のルールと自己について考えることができる。 ・カリキュラムと自己について考えることができる。 ・CSAを行うことができる。				【到達目標】 ・認知能力について考えることができる。 ・非認知能力について考えることができる。 ・認知特性について考えることができる。				
3	【授業単元】 自己と他者について②			11	【授業単元】 認知能力と非認知能力について③				
	【到達目標】 ・自分を知ることができる。 ・自分を知ることの意味を理解することができる。 ・PTリテラシー DXリテラシーを実施することができる。				【到達目標】 ・認知能力について理解することができる。 ・非認知能力について理解することができる。 ・認知特性について理解することができる。				
4	【授業単元】 自己と他者について③			12	【授業単元】 自分を知ることについて①				
	【到達目標】 ・他者を知ることができる。 ・他者を知ることの意味を理解することができる。 ・PTリテラシー DXリテラシーを実施することができる。				【到達目標】 ・自分を知ることの意味を知ることができる。				
5	【授業単元】 タスクとストレスについて①			13	【授業単元】 自分を知ることについて②				
	【到達目標】 ・タスクとは何か知ることができる。 ・ストレスとは何か知ることができる。				【到達目標】 ・自分を知り、考えることができる。 ・自分を分析することができる。				
6	【授業単元】 タスクとストレスについて②			14	【授業単元】 自分を知ることについて③				
	【到達目標】 ・日常のタスクについて考えることができる。 ・日常のストレスについて考えることができる。				【到達目標】 ・自分を知り、理解することができる。 ・自分を分析して他者へ説明することができる。				
7	【授業単元】 タスクとストレスについて③			15	【授業単元】 定期テスト				
	【到達目標】 ・タスク管理について理解することができる。 ・ストレス管理について理解することができる。				【到達目標】 認知能力と非認知能力について～自分を知ることについて理解を確かめることができる				
8	【授業単元】 中テスト			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験(五肢択一または記述式)で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
	【到達目標】 自己と他者について～タスクとストレスについて理解を確かめることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
気持ちや想いといった感情や思考といったものを言語化する力が介護には求められるので語彙力、ボキャブラリを増やせるよう言語、言葉に多く触れてほしい。本や新聞、雑誌、ニュースなど日常の情報に敏感になってほしい。									

授 業 概 要

科目名	ホスピタリティーマインド	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	市原 郷子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・演習、体験を通して「わかる」と「できる」ことを知り行動することの大切ややればできることを体験し主体的に行動することができる ・前期に学んだことを実践形式で習得する ・クラスメートと協力して課題達成することによって、助けあう気持ちを感じ、周りの状況を見て行動することができる グループワークを通して他者へ与える影響を体験し、相手に寄り添う行動とはどのようにするのかを知り実際に活用できる ・自分の気持ちや意見をどのように伝えるかを知る ・人は皆異なることを知り、伝えたい相手にどのようにしたら伝わるかの手法を学ぶ									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大企業人事部人事課採用業務に従事した経験をもとに企業研修や大学、高校、専門学校、障害者施設等で登壇している講師が、相手が何を求め、何をしたいと望んでいるのか推察し、その気持ちに寄り添い応えるために行動する具体的なことを体験する授業内容を行う。実践を繰り返すことで主体的に行動できる対応力を身につけるように演習を繰り返す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・講師自己紹介 ・授業の進めかた、受け方 ・潜在意識を掘り起こす通常とは異なる自己紹介 ・好感のもてるあいさつの仕方練習				9	【授業単元】 コミュニケーションワーク② 指示を理解して行動する			
	【到達目標】 ・クラスの全員とあいさつする ・グループになった相手を知る ・自己紹介の仕方(手法)を知る ・実習先や就職先で役にたつ社会人としての基本の挨拶ができる ・自分のことを伝えることができる					【到達目標】 ・相手が興味をひくような話の仕方を学ぶ ・与えられた問題に対して答えを出せるように考える力をつける ・その場にあった声のトーン、話すスピードの必要性を習得する			
2	【授業単元】 今の時代だからこそ好感のもてる対応と表現の仕方				10	【授業単元】 コミュニケーションワーク③ 相手の心に響くプレゼンテーション			
	【到達目標】 ・個々の不安を具体的に知り改善策を知る ・視野を広げる練習(全体を見る意識を高める)					【到達目標】 ・全体を見るスキルを体験する ・話し方の手法を知る ・評価の仕方を体験する			
3	【授業単元】 一人一人異なる相手に伝わる言葉の使い方				11	【授業単元】 グループワーク(思考力を高める)④			
	【到達目標】 ・相手に伝わる言葉の種類を知る ・他者の言葉の使い方を自分の中に取り入れる ・自分主体ではなく相手の立場に立つ					【到達目標】 ・自分とは異なる意見に対しての対応の仕方を知る ・自分の意見をタイミングよく伝える ・グループ全体の状況を常に把握する ・問題解決に向けて行動できる			
4	【授業単元】 グループワーク(良好な関係性を築くには！)①				12	【授業単元】 グループワーク(PDCAを意識する)⑤			
	【到達目標】 ・グループ内での自分の存在を知る ・問題、課題解決に向けての関わりかたを知る ・達成した時の感覚を体験する ・達成できなかったのときの関わりかたと今後への活かし方を学ぶ					【到達目標】 ・仕事だけでなく人生に役立つPDCAを知る ・状況を見て流れを変える必要性を体験する ・他者の意見を受け入れる			
5	【授業単元】 グループワーク(相手との関わりかたを体験する)②				13	【授業単元】 あらゆる場面で活用できる、ホスピタリティマインドを知る			
	【到達目標】 ・グループ内での関わりかたを学ぶ ・自分の意見を言う ・相手の意見を受容する(否定しない)					【到達目標】 ・今までに体験した場面を振り返り状況を伝えることができる ・状況を想定して対策、改善を考えることができる ・実際に活用できる			
6	【授業単元】 グループワーク(協力して問題解決)③				14	【授業単元】 グループワーク(グループに貢献する)⑥			
	【到達目標】 ・協力することを知る ・個人での問題解決と複数人での問題解決の仕方を体験する ・好感のもてる考え方の伝えかた ・全員と関わる環境をの作り方を知る					【到達目標】 ・相手の意見を受け入れることができる ・自分の意見を伝えることができる ・困ったこと(とき)の伝えかたを知る ・困っている人への接しかたを知る			
7	【授業単元】 コミュニケーションワーク① 聞くスキル				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 ・90%相手の話を聞くことができる ・話を聞いてもらえる感情を知る ・話を聞いてもらえない感情を知る					【到達目標】 ・相手の立場に立った対応の仕方を知る ・これだけは知っておきたい社会人としての基本ルール ・どこでもいつでも使えるビジネス常用語がわかる→使える			
8	【授業単元】 小テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・良好な人間関係の構築に必要なものを知る								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・気づく→考える→行動する ことを意識する ・授業のはじめと終わりの挨拶だけでなくワークの際などにも挨拶を怠らない									

授業概要

科目名	社会の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	黒澤 芳恵		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
生活の基本機能とライフサイクルの変化、および家族、社会、組織、地域社会の概念を理解することができる。 その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、介護保険制度、障害者福祉、介護実践に 関連する諸制度にどのようなものがあるか基本的な知識を習得することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士の資格を有し、福祉・保育・看護における教育に携わってきた者が、利用者の生活を支えていくという観点をもち、より能動的に学び、必要な知識 を身につけることを目的とした授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解【第2版】 (介護福祉士養成講座編集委員会) 中央法規出版					授業後は、学習した範囲の教科書やプリント等を見直すなどの復習をしてください。また、関連する他の科目についても確認しましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 生活の基本機能、ライフスタイルの変化、家族の機能と役割				9	【授業単元】 介護保険制度② 介護保険制度の利用までの過程			
	【到達目標】 前期の授業の進め方について理解する。 生活の構成要素と現代社会の課題を説明できる。 家族の定義、機能、変化などについて説明できる。					【到達目標】 介護保険サービスの利用手続きについて説明できる。			
2	【授業単元】 社会・組織、地域の機能と役割 地域社会における生活支援				10	【授業単元】 介護保険制度③ 介護保険制度における保険給付、介護保険サービス			
	【到達目標】 社会・組織、地域の機能・役割・変化などについて説明できる。 地域社会の概念を理解し、自助・互助・共助・公助について説明できる。					【到達目標】 介護保険給付の種類について理解できる。 各介護保険サービスの内容について理解し、述べることができる。			
3	【授業単元】 地域共生社会の実現に向けた制度や施策				11	【授業単元】 介護保険制度④ 介護保険制度の利用者負担			
	【到達目標】 地域福祉の理念や推進することの重要性を認識できる。 地域共生社会、地域包括ケアの理念や取り組みを理解できる。					【到達目標】 介護保険制度における利用者負担のしくみについて説明できる。 利用者負担の軽減制度について説明できる。			
4	【授業単元】 社会保障制度の概念、機能、体系				12	【授業単元】 介護保険制度⑤ 介護保険制度における保険料、財源のしくみ			
	【到達目標】 社会保障制度の基本的な考え方を理解できる。 社会保障制度の目的、機能、範囲や種類を説明できる。					【到達目標】 介護保険制度の介護保険料の内容を理解できる。 介護保険制度の財源について説明できる。			
5	【授業単元】 日本の社会保障制度の発達と歴史 近年の社会保障改革				13	【授業単元】 介護保険制度⑥ 介護保険制度における地域支援事業、公的、民間組織の種類と役割			
	【到達目標】 戦後から現代に至るまでの社会保障制度の歴史を整理できる。 近年行われている社会保障改革の方向性を理解できる。					【到達目標】 地域支援事業について種類、内容を説明できる。 介護保険制度に関わる各組織の種類と役割について説明できる。			
6	【授業単元】 社会保障の実施体制、しくみ(实施方式、給付、負担の方法など) 社会保障給付費の推移と現状、社会保障全体の課題				14	【授業単元】 介護保険制度⑦ 介護保険制度における専門職の役割、介護保険制度の改正のまとめ			
	【到達目標】 日本の社会保障制度のしくみを理解できる。 社会保障制度を支える負担と給付について説明できる。					【到達目標】 介護保険制度にかかわる専門職の役割について理解する。 介護保険制度改正の流れと動向について整理することができる。			
7	【授業単元】 高齢者保健福祉の動向(高齢化の現状、課題など) 高齢者保健福祉に関連する法体系				15	【授業単元】 前期試験、解答解説、授業の振り返り			
	【到達目標】 日本の高齢者保健福祉の歴史、現状、課題について理解できる。 高齢者保健福祉に関連する法体系の種類、概要について説明できる。					【到達目標】 前期の授業を振り返り、学習を深め、問題に答えることができる。			
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 介護保険制度① 介護保険制度の基本的概念				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、 AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2 の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下 は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、学習を深め、問題に答えることができる。 介護保険制度創設までの過程について理解できる。 介護保険制度の目的、理念について説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
知識を積み重ねていくことが重要な科目です。小さな疑問でも早めに解消できるよう、どんなことでも質問してください。									

授業概要

科目名	社会の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	黒澤 芳恵		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
生活の基本機能とライフサイクルの変化、および家族、社会、組織、地域社会の概念を理解することができる。 その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、介護保険制度、障害者福祉、介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるか基本的な知識を習得することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士の資格を有し、福祉・保育・看護における教育に携わってきた者が、利用者の生活を支えていくという観点をもち、より能動的に学び、必要な知識を身につけることを目的とした授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解【第2版】 (介護福祉士養成講座編集委員会) 中央法規出版					授業後は、学習した範囲の教科書やプリント等を見直すなどの復習をしてください。また、関連する他の科目についても確認しましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 障害者福祉の動向、障害者の定義				9	【授業単元】 介護実践に関連する諸制度① 年金保険の基本的な概要			
	【到達目標】 後期の授業の進め方について理解する。 障害者福祉制度の概念について具体的に理解できる。					【到達目標】 年金保険の概要を理解できる。 国民年金と厚生年金の給付と負担、財源等について説明できる。			
2	【授業単元】 障害者福祉制度の変遷 障害者保健福祉制度の法制度				10	【授業単元】 介護実践に関連する諸制度② 医療保険の基本的な概要			
	【到達目標】 障害者福祉制度の変遷について理解できる。 障害者保健福祉の法律の全体像を把握することができる。					【到達目標】 医療保険の概要を理解できる。 医療保険の種類、給付と負担、財源等について説明できる。			
3	【授業単元】 障害者総合支援制度① 障害者総合支援制度の創設の背景、目的、理念 制度における障害者の定義				11	【授業単元】 介護実践に関連する諸制度③ 労災保険、雇用保険の基本的な概要 生活保護制度の概要			
	【到達目標】 障害者総合支援法の理念、基本的枠組みについて理解できる。 障害者総合支援法における障害者の定義を説明できる。					【到達目標】 労災保険、雇用保険について概要を理解できる。 生活保護制度の目的、原理原則、種類、内容、手続き、動向等について説明できる。			
4	【授業単元】 障害者総合支援制度② 障害福祉サービスの利用までの過程				12	【授業単元】 介護実践に関連する諸制度④ 権利擁護の諸制度(成年後見制度、各虐待防止法、消費者保護など)			
	【到達目標】 障害福祉サービスの利用手続きについて説明できる。					【到達目標】 成年後見制度、日常生活自立支援事業について概要を説明できる。 各種の虐待防止法について、概要や実態などを理解できる。 消費者保護、個人の権利を守る法制度の概要を説明できる。			
5	【授業単元】 障害者総合支援制度③ 障害者総合支援法の給付・事業の種類、内容				13	【授業単元】 介護領域に関わる保健医療、地域生活を支援する法制度			
	【到達目標】 障害者総合支援法における給付・事業の種類と内容について説明できる。					【到達目標】 保健医療の各制度について説明できる。 生活習慣病や感染症の予防・対策に関する法制度について説明できる。 地域生活を支援する法制度について説明できる。			
6	【授業単元】 障害者総合支援制度④ 障害者総合支援制度における利用者負担のしくみ 専門職の役割・機能				14	【授業単元】 前後期の総復習			
	【到達目標】 利用者負担のしくみと軽減措置について説明できる。 障害者総合支援制度に関わる専門職の役割・機能について説明できる。					【到達目標】 「社会の理解」全体の復習と振り返りができる。			
7	【授業単元】 障害者総合支援制度⑤ 障害者総合支援制度における組織、団体の機能と役割				15	【授業単元】 後期試験、解答解説、授業の振り返り			
	【到達目標】 障害者総合支援制度にかかわる公的、民間の各組織の種類とそれぞれの役割について整理し、説明できる。					【到達目標】 後期の授業を振り返り、学習を深め、問題に答えることができる。			
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 障害児・者への法制度のまとめ				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、学習を深め、問題に答えることができる。 障害児・者への法制度全般について理解できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
知識を積み重ねていくことが重要な科目です。小さな疑問でも早めに解消できるよう、どんなことでも質問してください。									

授 業 概 要

科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	永嶋 丈晴		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人間の多面的な理解を基礎に、介護福祉士としての倫理基盤、コミュニケーションの基礎、チームで働く能力を養うとともに、演習を通じてそれらに必要な技術を学ぶ									
【学習内容】									
特養・デイサービス・グループホームで介護職や相談援助職、管理職に従事している者が、対人援助関係の基礎となるコミュニケーションや介護実践に必要なチームマネジメントや人材育成・自己研鑽、組織の役割等について実例を交えた講義・演習を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版 介護福祉士養成講座 1 人間の理解									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 科目オリエンテーション 第2章 人間関係とコミュニケーション（第1節 人間と人間関係）①				9	【授業単元】 中間試験の解答・解説 第3章 介護実践におけるチームマネジメント			
	【到達目標】 人間関係の中での自分と他者の理解について説明することができる 「自己覚知」「自己開示」について説明することができる					【到達目標】 「ヘッドシップ」「リーダーシップ」「マネジメント」とは何か説明することができる			
2	【授業単元】 第2章 人間関係とコミュニケーション （第1節 人間と人間関係）②				10	【授業単元】 第3章 介護実践におけるチームマネジメント （第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義）			
	【到達目標】 人間の発達について「発達心理学」と「社会心理学」の側面から人がどのように他者や集団と関わり、成長するのかを述べることができる					【到達目標】 介護サービスの特性を理解するとともに介護サービスと他のサービスとの相違点について説明することができる 介護実践においてチームマネジメントが必要とされる背景について説明することができる			
3	【授業単元】 第2章 人間関係とコミュニケーション （第1節 人間と人間関係）③				11	【授業単元】 第3章 介護実践におけるチームマネジメント （第2節 ケアを展開するためのチームマネジメント）			
	【到達目標】 ストレスとは何かを説明することができる 人間関係等の様々な要因から生じるストレスへの応じ方について説明することができる					【到達目標】 ケアを展開するためのチームのあり方や必要な機能について説明することができる チームの力を発揮するうえで必要となる、リーダーシップ、フォロワーシップについて学ぶ			
4	【授業単元】 第2章 人間関係とコミュニケーション （第2節 対人関係におけるコミュニケーション）①				12	【授業単元】 第3章 介護実践におけるチームマネジメント （第3節 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント）			
	【到達目標】 コミュニケーションとは何かを理解するとともに、その特性や構造について説明することができる 言語的コミュニケーションの機能や特性について説明することができる					【到達目標】 キャリアに応じて求められる実践力とチームケアのために必要な実践力とは何かを説明することができる 人材育成の仕組み（方法）であるOJT・Off-JT等について説明することができる 自分自身のキャリアをイメージすることができる			
5	【授業単元】 第2章 人間関係とコミュニケーション （第2節 対人関係におけるコミュニケーション）②				13	【授業単元】 第3章 介護実践におけるチームマネジメント （第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント）			
	【到達目標】 コミュニケーションとは何かを理解するとともに、その特性や構造について説明することができる 非言語的コミュニケーションの機能や特性について説明することができる					【到達目標】 介護サービスにおいて、組織がどのような役割・機能を果たしているのかを説明することができる 組織がどのような構造でどのように管理されているのかを説明することができる			
6	【授業単元】 第2章 人間関係とコミュニケーション （第3節 対人援助関係とコミュニケーション）				14	【授業単元】 第2章・第3章の振り返り			
	【到達目標】 人間関係がどのように展開（発展・後退）をするのかを説明することができる 対人援助職に求められるコミュニケーションの基本姿勢について説明することができる					【到達目標】 これまでの授業内容についての自分自身の理解度を知るとともに、自身の課題を明らかにする			
7	【授業単元】 第2章 人間関係とコミュニケーション （第4節 組織におけるコミュニケーション）				15	【授業単元】 期末テスト テスト解説			
	【到達目標】 組織とは何かを説明することができる 組織における情報の流れや求められるコミュニケーションについて説明することができる					【到達目標】 これまでの授業内容についての自分自身の理解度を知る			
8	【授業単元】 ①～⑦までの振り返り 中間テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト（8回目の授業で実施）は15点満点とする。その合計（80点満点）の1／2の点数（小数点以下切り上げ）を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ①～⑦までの自分自身の理解度を知る								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	地域共生学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	足立昌紀		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	I 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
なぜ今地域共生社会の実現を求めるのか。その先にどのようなことを見ているのか、福祉、介護の専門職として何を目指していかなければならないのか、今後の日本の人口構造や行政、制度背景を知り、介護に携わる専門職としてどのように関わるのかを考えることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
現在、高齢者の介護実践現場にて働いている教員がこれまでの地域との関わりを通じて視点を基に、地域からの声も交え情報提供。学生は介護の視点のみならず、多角的な視点でそれらを考察し、自らの考えに固執することなく他者の考えを柔軟に取入れられるよう、学生が主体となれるような講義とする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
特定の教科書は無し。配布資料を参考に学びを深め、他者の発表なども参考にしながら独自の学習資料を作成する。					日ごろから地域共生に関わるものに関心を持ち、情報収集しておく。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 「地域共生社会」とは、また、「地域」とは何かを確認し、現在求められている「地域共生社会」について深める。				9	【授業単元】 地域包括ケアシステムについて制度背景から学ぶ。			
	【到達目標】 地域というワードでイメージしているものは何かを確認し、お互いの価値観を受容できるようになる。また、地域共生社会について他者に説明できるようになる。					【到達目標】 地域包括ケアシステムについて、自らの考えをもって説明することができる。			
2	【授業単元】 地域共生に向けて他者との繋りを強化するために、他者の考えを受け入れられるようになる。				10	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを実践する1 フィールドワーク制作など			
	【到達目標】 他者の多様な考えについて受け入れられる許容量を持ち、お互いを尊重できる。					【到達目標】 自治体の施策との関係性、活用できる制度やサービス、インフォーマルな資源に着目し、介護福祉士として専門性を活かした視点や実践を示すことができる。			
3	【授業単元】 地域共生社会が目指す4つの柱について学ぶ。				11	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを実践する2 フィールドワーク制作など			
	【到達目標】 地域共生社会と地域包括ケアシステムの関係について学び、説明することができる。					【到達目標】 自治体の施策との関係性、活用できる制度やサービス、インフォーマルな資源に着目し、介護福祉士として専門性を活かした視点や実践を示すことができる。			
4	【授業単元】 地域資源について考え、ネットワーク構築のための動きを考えることができる。				12	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを実践する3 フィールドワーク制作など			
	【到達目標】 地域資源の種類と幅を考え、資源としての提示を考えることができる。					【到達目標】 自治体の施策との関係性、活用できる制度やサービス、インフォーマルな資源に着目し、介護福祉士として専門性を活かした視点や実践を示すことができる。			
5	【授業単元】 地域共生社会の実現に向けて、課題を考えることができる。1				13	【授業単元】 実践活動報告1			
	【到達目標】 地域共生社会の実現に向けて、現在自身が住んでいる地域を基にどのような構造であるのかを確認。グループで発表できる。					【到達目標】 地域共生社会が目指す「4つの柱」と地域包括ケアシステムとの運動について関係性を示し説明することができる。			
6	【授業単元】 地域共生社会の実現に向けて、課題を考えることができる。2				14	【授業単元】 実践活動報告2			
	【到達目標】 5回目の際に調べた内容から、地域共生社会の実現に向けて、今後介護福祉士として取り組むべきテーマを考え発表することができる。					【到達目標】 地域共生社会が目指す「4つの柱」と地域包括ケアシステムとの運動について関係性を示し説明することができる。			
7	【授業単元】 地域共生社会の実現に向けて、課題を考えることができる。3				15	【授業単元】 学習の振り返り			
	【到達目標】 地域共生社会を実践するにあたってのプロセスを理解し、行動計画を立てることができる。					【到達目標】 介護福祉士として、もしくは、地域住民として、地域共生社会の実現に取り組んでいく視点を明確にし、具体的な行動をイメージすることができる。			
8	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを考える。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 中間テストは8回目のプレゼンテーションの教員と他己評価評価で換算する。 定期試験は13回目、もしくは14回目のプレゼンテーションの評価と15回目の論述試験を換算する。				
	【到達目標】 プレゼンテーション、および質疑応答を通して自身が取り組むテーマについて他者に説明することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
クラスメイトやグループメンバーの価値観や得意不得意を尊重して取り組むことが求められます。みなさんの多様な価値観やアイデアに対して関心をもって聞くことができることを期待します。									

授 業 概 要

科目名	介護の基本Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡邊尚太		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
その人らしい生活を支援する専門職として基本となる考え方や姿勢を学び、介護福祉士として理解しておく事項の学びを深める									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護職経験者である者が、介護サービスが介護福祉士にチームマネジメントが求められる背景と全体像について講義し、多職種協働のあり方や、チームの力を最大限に発揮する取り組みの理解が深まるよう授業します。また、人材育成・自己研鑽について、実例を挙げ、学びます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護福祉養成講座 1 人間の理解									
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 第1章 介護福祉士の基本となる理念 介護福祉士を取り巻く状況				9	【授業単元】 第4章 自立に向けた介護 介護福祉における自立支援			
	【到達目標】 導入 介護福祉士の基本理念を確認すること 介護福祉士を取り巻く状況を整理し、現代の介護福祉士としての役割を確認する					【到達目標】 介護福祉士としてどのような自立支援が行えるか、理解を深める			
2	【授業単元】 介護サービスと家族介護 平均寿命の延伸とその理由				10	【授業単元】 第2節 ICFについて			
	【到達目標】 家族介護の形が変わり、介護の「社会化」の中で、どのように利用者と関わるかを学ぶ					【到達目標】 介護におけるICFの捉え方を理解する			
3	【授業単元】 第2節 介護福祉の歴史 介護福祉の基本理念				11	【授業単元】 第3節 自立支援とリハビリテーション リハビリテーションの実際・介護予防			
	【到達目標】 福祉・介護の歴史的変遷を学び、現在の「介護」に至るまでの過程を学び、介護福祉士に求められる役割を確認する					【到達目標】 自立支援に求められるリハビリテーションを学び、障害の程度とその評価について理解を深める			
4	【授業単元】 第2章 介護福祉士の役割と機能 社会福祉士及び介護福祉士法				12	【授業単元】 リハビリテーションの理念 リハビリテーションにおける介護福祉士の役割			
	【到達目標】 介護福祉士の役割を学び、その根拠となる法律の変遷を理解することで、求められる役割を再確認する					【到達目標】 リハビリテーションの中での自立支援の考え方の理解を深め、その中での介護福祉士の役割を学ぶ			
5	【授業単元】 第2節 介護福祉士の活動の場と役割				13	【授業単元】 第4節 自立支援と介護予防 介護予防の概要			
	【到達目標】 地域包括ケアシステムの理解、介護予防や医療的ケアについて学びを深める					【到達目標】 介護予防の概要、種類と展開方法について学ぶ			
6	【授業単元】 第3節 介護福祉士に求められる役割とその養成 介護福祉士教育について				14	【授業単元】 介護予防の実際			
	【到達目標】 福祉専門職に求められる役割を学び、介護福祉士へ期待されていることを学ぶ					【到達目標】 高齢者の身体的特性と介護予防について学び、なぜ、介護予防が重要かを学ぶ			
7	【授業単元】 介護福祉士を支える団体 第3章 介護福祉士の倫理				15	【授業単元】 期末テスト			
	【到達目標】 介護実践における倫理、倫理的対応について 介護福祉士倫理綱領					【到達目標】			
8	【授業単元】				【成績評価の方法と基準】				
	中テスト				出席日数 授業態度 試験				
【到達目標】									
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	介護の基本Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡邊尚太		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援する為の仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護職経験者である者が、介護サービスが介護福祉士にチームマネジメントが求められる背景と全体像について講義し、多職種協働のあり方や、チームの力を最大限に発揮する取り組みの理解が深まるよう授業します。また、人材育成・自己研鑽について、実例を挙げ、学びます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護福祉養成講座 介護の基本Ⅱ									
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 第1章 介護福祉を必要とする人の理解 第1節 私達の生活の理解				9	【授業単元】 第3章 介護における安全の確保 第1節 介護における安全の確保 第2節 リスクマネジメントとは何か			
	【到達目標】 介護福祉士を必要とする人の理解と同時に私達がどのように生活が成り立っているかを学ぶ					【到達目標】 介護におけるリスクマネジメントを学び、現場での事故対策に活かす			
2	【授業単元】 第2節 介護福祉を必要とする人たちの暮らし				10	【授業単元】 第3節 感染症対策 様々な感染症対策とその意義			
	【到達目標】 介護福祉士を必要とする人たちの理解を深め、その立場に立った考え方を学ぶ					【到達目標】 感染症対策を学び、現場での感染症対策に活かす。			
3	【授業単元】 第3節 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 「その人らしさ」とは何か				11	【授業単元】 第4章 協働する多職種の機能と理解 第1節 多職種連携・協働の必要性 第2節 多職種連携・協働に求められる基本的な能力			
	【到達目標】 「その人らしさ」と「自分らしさ」の違いを認識し、その人らしさの為の真のニーズの探り方を学ぶ					【到達目標】 協働する多職種の機能を学び、理解を深める IPW/IPE			
4	【授業単元】 第4節 生活のしづらさの理解と支援 生活のしづらさについて考える				12	【授業単元】 第3節 保険・医療・福祉職の役割と機能 第4節 多職種連携・協働の実例			
	【到達目標】 障害を負われた方々の生活障害を学ぶ					【到達目標】 多職種連携の実例を学び、現場での連携方法についての学びを深める			
5	【授業単元】 第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組み 第1節 生活を支えるフォーマルサービス				13	【授業単元】 第5章 介護従事者の安全 第1節 健康管理の意義と目的 第2節 心の健康管理			
	【到達目標】 生活を支えるフォーマルサービスの種類と活用方法を学ぶ					【到達目標】 介護職員自身の健康管理の意義を学び、就業の際のストレスマネジメントの理解を深める			
6	【授業単元】 第2節 生活を支えるインフォーマルサービスとは 私的サービスとは				14	【授業単元】 第3節 身体の健康管理 第4節 労働環境の整備			
	【到達目標】 生活を支えるインフォーマルサービスの種類とその活用方法を学び、実践例を学ぶ					【到達目標】 介護職自身の身体の健康管理と、職場の労働環境及び労働関係法令を学ぶ			
7	【授業単元】 第3節 地域連携とは 地域連携の意義と目的				15	【授業単元】 期末テスト			
	【到達目標】 地域連携の意義と目的を学び、地域連携の実践例を学ぶ					【到達目標】 ⑨～⑪到達度の確認			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 出席日数 授業態度 試験				
	【到達目標】 ①～⑦到達度の確認								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	永嶋 丈晴		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学ぶとともに、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う									
【学習内容】									
特養・デイサービス・グループホームで介護職や相談援助職、管理職に従事している者が介護実践に必要なコミュニケーション技術を習得するための授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 科目オリエンテーション 第1章 介護におけるコミュニケーションの基本 第2章 コミュニケーションの基本技術(第1節 コミュニケーション態度に関する基本技術)				9	【授業単元】 第4章 家族とのコミュニケーション (第2節 家族への助言・指導・調整・第3節 家族関係と介護ストレスへの対応)			
	【到達目標】 ・介護におけるコミュニケーションの意義を説明することができる ・介護福祉職の職務におけるコミュニケーションの役割を説明することができる ・援助関係におけるコミュニケーションのあり方を説明することができる ・介護福祉職に求められるコミュニケーション態度について説明することができる					【到達目標】 利用者のより良い生活を実現するための、家族への助言・指導の具体的方法を説明できる 家族を支援する際の視点と家族関係やに応じたコミュニケーションの方法を説明することができる			
2	【授業単元】 第2章 コミュニケーションの基本技術 (第2節 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本・第3節 目的別のコミュニケーション技術 第4節 集団におけるコミュニケーション技術)				10	【授業単元】 第4章 家族とのコミュニケーション (第3節 家族関係と介護ストレスへの対応)			
	【到達目標】 言語・準言語・非言語コミュニケーションとは何か、その機能・役割について説明できる 利用者の意欲を高めたり、事実を共有するための技術とはどのようなものかを説明できる 利用者の意思決定支援の考え方を説明できる 集団に対してのコミュニケーションのあり方を説明できる					【到達目標】 家族関係と介護ストレスに配慮したコミュニケーションとは何かを説明することができる 家族が抱える介護ストレスに応じたコミュニケーションを行うことができる			
3	【授業単元】 第3章 対象者の特性に特性に応じたコミュニケーション (第1節 コミュニケーション障害への基本対応・第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援)				11	【授業単元】 第5章 介護におけるチームのコミュニケーション (第1節 チームコミュニケーションとは)			
	【到達目標】 ・コミュニケーション障害のある人へのアセスメントの方法について説明することができる ・様々な障害がもたらすコミュニケーション障害を理解するとともに、障害がある人への具体的なコミュニケーションの方法について説明することができる(視覚障害・聴覚障害)					【到達目標】 多職種(他職種)協働の意義と目的について説明することができる。 チームが機能するためのコミュニケーションを行うことができる			
4	【授業単元】 第3章 対象者の特性に特性に応じたコミュニケーション (第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援)				12	【授業単元】 第5章 介護におけるチームのコミュニケーション (第2節 報告・連絡・相談の技術・第3節 記録の技術)			
	【到達目標】 ・様々な障害がもたらすコミュニケーション障害を理解するとともに、障害がある人への具体的なコミュニケーションの方法について説明することができる(構音障害・失語症・うつ病等)					【到達目標】 報告・連絡・相談の意義と具体的な技法について説明・実施することができる。 介護現場における、記録の目的・意義について説明することができる			
5	【授業単元】 第3章 対象者の特性に特性に応じたコミュニケーション (第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援)				13	【授業単元】 第5章 介護におけるチームのコミュニケーション (第4節 会議・議事進行・説明の技術・第5節 事例検討に関する技術 第6節 情報の活用と管理のための技術)			
	【到達目標】 ・様々な障害がもたらすコミュニケーション障害を理解するとともに、障害がある人への具体的なコミュニケーションの方法について説明することができる(知的障害・発達障害・高次脳機能障害・重症心身障害)					【到達目標】 会議の意義や目的、種類、役割を理解するとともに、議事進行のプロセスを説明することができる 事例検討におけるコミュニケーションの基本姿勢と事例検討の展開と必要な視点を説明することができる			
6	【授業単元】 第3章 対象者の特性に特性に応じたコミュニケーション (第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援)				14	【授業単元】 第1章～第5章までの振り返り			
	【到達目標】 ・様々な障害がもたらすコミュニケーション障害を理解するとともに、障害がある人への具体的なコミュニケーションの方法について説明することができる(統合失調症・認知症)					【到達目標】 これまでの授業内容についての自分自身の理解度を知るとともに、自身の課題を明らかにする			
7	【授業単元】 ①～⑥までの振り返り 中間テスト				15	【授業単元】 期末テスト テスト解説			
	【到達目標】 ①～⑥までの自分自身の理解度を知る					【到達目標】 これまでの授業内容についての自分自身の理解度を知る			
8	【授業単元】 第4章 家族とのコミュニケーション (第1節 家族との関係づくり)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
	【到達目標】 ・家族とは何かを説明することができる ・家族との協働関係を構築していくための具体的方法について説明することができる				・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(7回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	生活支援技術Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	馬場 千草		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
障害や疾病のある人について、①医学的・心理的側面から理解すること ②生活上の困りごとを理解すること ③障害や疾病のある人への生活支援において、介護福祉職が果たすべき役割を理解することを目的とし、自立に向けた生活支援の方法を具体的に学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士として20年、障害者支援施設、訪問介護事業所、介護老人福祉施設での勤務経験あり。介護教員として15年、国家資格取得のためのサポート及び、介護福祉職のスキルアップにも関わる。新しい介護、幸せな介護、楽しい介護を伝えます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座 8生活支援技術Ⅲ「第2版」(介護福祉士養成講座編集委員会)中央法規出版					事前学習:からだの仕組み、疾病、障害の特性について確認する。事後学習:具体的支援方法の根拠を整理する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1.2	【授業単元】 オリエンテーション:科目授業説明・自己紹介				17.18	【授業単元】 【内部障害】腎臓機能障害に応じた介護			
	【到達目標】 授業を通じての到達目標をと目標達成するための方法手段を理解する。 ◆演習:チームビルディングゲーム					【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:排泄支援(ポータブルトイレ介助)			
3.4	【授業単元】 肢体不自由に応じた介護:背腿損傷・片麻痺・脳性麻痺				19.20	【授業単元】 【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護			
	【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:片麻痺の衣類交換・移動・移乗の支援・排泄支援(トイレ介助)					【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:ベッドメイキング(一人で行う)			
5.6	【授業単元】 【内部障害】心臓機能障害に応じた介護				21.22	【授業単元】 知的障害・重症心身障害に応じた介護			
	【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:心臓機能障害のある人の支援(安楽な体位・個浴槽での入浴の支援)					【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:シーツ交換(臥床している状態)			
7.8	【授業単元】 【内部障害】膀胱・直腸障害に応じた介護				23.24	【授業単元】 精神障害・高次脳機能障害に応じた介護			
	【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:膀胱直腸機能障害のある人の(膀胱留置力テール・ストマの支援)					【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:排泄の介助(全介助:トイレ・おむつ交換)			
9.10	【授業単元】 【内部障害】小腸機能障害に応じた介護				25.26	【授業単元】 【難病】パーキンソン病・悪性リウマチに応じた介護			
	【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:小腸機能障害のある人の支援(衣類交換)					【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:着脱の介助(全介助)			
11.12	【授業単元】 【内部障害】呼吸機能障害に応じた介護				27.28	【授業単元】 【難病】筋萎縮性側索硬化症(ALS)・筋ジストロフィーに応じた介護			
	【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:呼吸機能障害のある人の支援(安楽な姿勢・入浴・排泄・更衣)					【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:移動・移乗介助(全介助)			
13.14	【授業単元】 【内部障害】聴覚・言語障害に応じた介護 中テスト				29.30	【授業単元】 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセス(ACP:アドバンスケアプランニング)・定期試験			
	【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:聴覚、言語障害のある人とのコミュニケーション					【到達目標】 人生会議を通して人それぞれの価値観に違いがあることを知る。意思決定支援は年齢や心身の状況によって変化することを理解する。 ◆演習:人生会議(もしばなゲーム)			
15.16	【授業単元】 【内部障害】視覚障害に応じた介護				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◆演習:視覚障害のある人の支援(白杖歩行・点字)								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
職業人としての身だしなみ、忘れ物が無いよう授業に参加すること。									

授 業 概 要

科目名	生活支援技術Ⅲ(調理・家政)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大場 泉		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
座学による栄養調理における生活支援技術の知識を習得と実習による実践的な技術の習得をし、食事支援の技術を身につけ、利用者に合わせた食事援助が実践できるようになる 災害時の食支援についても、適切な対応ができるようになる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
特別養護老人ホームで、栄養管理、衛生管理、利用者の食支援を行った経験のある講師が、実際の現場で必要とされる食事支援についてを講義する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
生活支援技術Ⅰ 生活支援技術Ⅲ(中央法規出版)					日常生活の中で、調理に使用する器具や食器、食材などに興味を持ち、どのように使用するのが適切なのかを考える				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 授業で学ぶ内容について 買い物支援について 【到達目標】 授業で学ぶ内容を理解し、意欲を持って実習に取り組めるようになる 買い物物を頼まれた時の注意点を理解し、適切な買い物支援ができる 買い物した後の領収書の受け取り方や記載の仕方など買い物物の処理についても、適切に行うことができる				9	【授業単元】 【到達目標】			
2 3	【授業単元】 高齢者の特性について学び、理解する 日本料理のマナーについて理解する 調理実習室の使い方について理解する 【到達目標】 高齢者の特性について学び、適切な食事とはどのような食事が実習を通して理解し、適切な食支援を行うことができる 日本の食のマナーについて理解し、正しいマナーで食事をすることができる				10	【授業単元】 【到達目標】			
4 5	【授業単元】 食品の衛生的で安全な取り扱いについて学ぶ 後片付けや、適切な方法を理解する 【到達目標】 食中毒の基礎知識について学び、食品を衛生的に取り扱うことができる 食器や器具を安全に衛生的に取り扱うことができる				11	【授業単元】 【到達目標】			
6 7	【授業単元】 栄養の基礎知識を習得する それぞれの栄養素の働きと栄養のバランスとは、何かを理解できる 中間テストを実施する 【到達目標】 バランスの取れた食事のモデル献立の、調理実習を行う 調理実習した食事には、どのような栄養素が含まれて、バランスが取れているのかの説明ができる				12	【授業単元】 【到達目標】			
8 9	【授業単元】 高齢者の疾病による食事支援で治療食を学ぶ 糖尿病、高血圧、腎疾患などの治療食で控えるもの、おいしく食べるための工夫を理解できる 【到達目標】 減塩食の調理実習を通じて、治療食とは何かを理解できる 減塩食をおいしく食べるための工夫を行うことができる 疾患を有する利用者に対して、治療食に対して適切な支援を行うことができる				13	【授業単元】 【到達目標】			
10 11	【授業単元】 災害時の食支援について学ぶ パッククッキングを実習する 嚥下調整食について学ぶ 【到達目標】 災害時の二次災害になりやすい高齢者や障害者に対して、災害時に適切な食支援を行うことができる 嚥下調整食の学会基準のコードを学び、嚥下状態に適した食事を提供するためにアセスメントを行うことができる				14	【授業単元】 【到達目標】			
12 13	【授業単元】 行事食について 郷土料理について 【到達目標】 行事食について理解を深め、施設での行事を適切に行うことができる 日本の行事について理解し、この行事はなんのために行うのか説明することができる				15	【授業単元】 【到達目標】			
14 15	【授業単元】 食品衛生、栄養学の基礎知識などの復習を演習を通して行う 期末テストの実施 【到達目標】 座学と実習を通して、学んだことを演習を通しての理解度を高めることができる 期末テストで自分自身の理解度を知る				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
調理実習にあたっては、安全を心がけ、真摯に取り組む 調理実習の準備や後片付けも授業の一部と考えて行う 授業の予習、復習を行う									

授 業 概 要

科目名	生活支援技術Ⅲ(調理・家政)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	馬場 千草		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本人主体の生活を維持継続するための基本的な家事(環境整備・洗濯・掃除・簡単な縫い物)を学ぶ。対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための知識を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士として20年、障害者支援施設、訪問介護事業所、介護老人福祉施設での勤務経験あり。介護教員として15年、国家資格取得のためのサポート及び、介護福祉職のスキルアップにも関わる。新しい介護、幸せな介護、楽しい介護を伝えます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座 6生活支援技術Ⅲ「第2版」(介護福祉士養成講座編集委員会)中央法規出版					事前学習:テキストを読む、用語を調べる。 事後学習:自宅にて学んだ内容を実践する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	1・家政と調理合同授業 :オリエンテーション・授業内容・授業スケジュール 2:生活支援における福祉用具の重要性について理解する					【授業単元】			
	【到達目標】 1・家政と調理に分かれて授業が進行することを理解する。 2・福祉用具の定義と福祉用具を使用する意義を理解する					【到達目標】			
2.3	【授業単元】 住まいの役割と機能 安全に生活するための生活環境					【授業単元】			
	【到達目標】 ・住まいの役割と機能を理解できる ・生活空間を整備することができる ・日常安全の重要性と対応が理解できる ・住環境に関わる職種と役割について理解できる ◆演習:危険予知訓練					【到達目標】			
4.5	【授業単元】 ・家庭経営 ・家計の管理と介護 ・買い物の介護 ・消費者保護					【授業単元】			
	【到達目標】 ・家庭経営(お金の基本)を理解することができる ・悪質商法 ・クーリングオフ・買い物の意義を理解し支援方法が理解できる ◆演習:買い物支援					【到達目標】			
6.7	【授業単元】 ・洗濯の介護 ・中テスト					【授業単元】			
	【到達目標】 ・繊維の種類と洗濯方法が理解できる ・漂白剤、染み抜きの方法が理解できる ◆演習:洗濯マークかるた ・手洗いの洗濯					【到達目標】			
8.9	【授業単元】 裁縫:衣類の補修と管理方法					【授業単元】			
	【到達目標】 ・手縫いの方法:基本縫い・ボタンつけ ・衣類の収納に必要な防虫剤が理解できる ◆演習:手縫いの基本 ■使用物品:裁縫道具					【到達目標】			
10.11	【授業単元】 ・手縫いの方法:基本縫いを使い作品をチームで作成する					【授業単元】			
	【到達目標】 ・チームで製作物を考えることができる ・チームメンバーとして役割を持つことができる					【到達目標】			
12.13	【授業単元】 室内の環境整備:トイレ掃除・浴室掃除・居室掃除・ごみの出し方					【授業単元】			
	【到達目標】 在宅と施設の環境整備について理解し自立に向けた家事について考えることができる。 ◆演習:実習室の環境整備					【到達目標】			
14.15	【授業単元】 ・災害時における介護職の役割と生活環境の実際 ・定期期末試験				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト、課題提出等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テスト、課題提出は、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。 その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・災害時における生活支援について理解できる ・被災地における活動場所を理解し生活支援の具体的内容について学ぶ ◆演習:非常食・簡易エプロンの作り方								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
チームでの学習となります。チーム活動であることを前提として、報告・連絡・相談を行い協力し取り組みましょう。									

授 業 概 要

科目名	介護過程Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	森 伸彦		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
利用者の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行ない、利用者の多様なニーズに応じた介護過程の展開技術を習得することができる。 根拠に基づいた介護を実践していくために、チームケアのチーム構成員として自分の考えをメンバーに伝達するコミュニケーション能力を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士として20年以上、介護支援専門員としては15年以上の現場での経験と、クオリティマネジャーとして社内全事業のサービスの質を管理している経験を偏りのない普遍的な内容に置き換え、実践で通用する介護過程の授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版(株) 最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版					「介護過程」の授業を通じて、学校以外でも「人が安心して生活できること」に自然と関心が向き、介護の経験値として蓄積できるようになることを目指す。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション(自己紹介・授業の方針、到達すべき目標の確認等) ・1年生を振り返りながら事例①を検討。 ・介護福祉士が行う介護過程の意義と目的を再確認。				17	【授業単元】 ・「点検シート」を使用し実習で取り組んだ介護計画を補完、修正する。 ・実習事例(事例④とする)を使用し、ペアで交換演習を行う。			
2	【到達目標】 ・授業の方針、介護過程の到達目標を共有することができる。 ・介護過程の意義と目的を改めて理解することができる。 ・「アセスメント」の重要性等について理解することができる。				18	【到達目標】 ・実習で取り組んだ介護計画を補完、修正することができる。 ・自身が関わった事例について理路整然と発表することができる。 ・相手が行ってきた介護過程の展開について客観的にアセスメントする事ができる。			
3	【授業単元】 ・事例①を振り返り介護過程のプロセスと自立支援の重要性を学ぶ。 ・授業とグループワーク中のグランドルールについて確認。 ・事例②を検討。				19	【授業単元】 ・アセスメント時のポイントについて振り返りを行なう。 ・事例④の介護過程の展開の続き。			
4	【到達目標】 ・事例①を通して在宅にお住いの利用者様の日常生活がイメージできるようになる。 ・介護過程のプロセスと自立支援の重要性について理解することができる。 ・授業とグループワークにおけるグランドルールについて理解することができる。				20	【到達目標】 ・アセスメントのポイントを改めて理解することができる。 ・事例④について、根拠に基づいたアセスメントが行えるようになる。			
5	【授業単元】 ・事例②について、科学的根拠に基づいたアセスメントを行う。 ・情報収集の目的と解釈、関連づけ、統合を行う。				21	【授業単元】 ・介護計画の立案時のポイントについて振り返りを行なう。 ・事例④の介護過程の展開の続き。※目標設定と介護計画の立案。			
6	【到達目標】 ・アセスメントの方法、情報の種類(主観、客観)、情報収集の目的について再確認。 ・事例②で得た情報を分析、解釈し、「生活課題」「ストレングス」を導き出せるようになる。				22	【到達目標】 ・介護計画の立案時のポイントを改めて理解することができる。 ・根拠に基づいた独自の視点で目標設定ができるようになる。 ・事例④について、介護計画の立案まで行うことができる			
7	【授業単元】 ・事例②のアセスメント結果を基に、「生活課題」「ストレングス」の導き出し方と転換方法(リフレーミング)について学ぶ。 ・「目標設定」の留意点と優先順位のつけ方について学ぶ。				23	【授業単元】 ・事例④の介護計画の完成に向けた取り組み。 ・事例④について事例提供者に介護計画を発表。後、「振り返りシート」に記入。			
8	【到達目標】 ・他の授業科目や過去の実習で得た知識や経験を活用し、生活課題やストレングスを明確化にすることができるようになる。 ・根拠に基づいた目標設定が出来るようになる。				24	【到達目標】 ・事例④の介護計画を完成させることができる。 ・事例提供者に介護計画を発表。 ・「振り返りシート」により自身の介護計画を振り返り、多面的な視点を持つことができる。			
9	【授業単元】 ・事例②で導き出した生活課題やストレングスを基に介護計画の目標と具体的な支援内容について計画する。・介護計画立案の際の留意点について確認する。				25	【授業単元】 ・「振り返りシート」を使用し、交換演習で行なった介護計画と感想を発表。 ※進度により発表前に作業を行う。			
10	【到達目標】 ・介護計画立案の際の留意点に注意しながら事例②の介護計画が立案できる。 ・目標に向けた具体的な支援内容がイメージできるようになる。				26	【到達目標】 ・皆の前で自身が取り組んだ事例検討を理路整然と発表することができるようになる。 ・専門職の前で発表する事に慣れることができるようになる。 ・自分では気がつかなかった点を受け入れ、ケースの理解を深めることができる。			
11	【授業単元】 ・介護計画の評価方法について再確認。 ・一連の介護過程を振り返る。 ・事例③を検討。				27	【授業単元】 ・不適切ケアの実際①について考える。			
12	【到達目標】 ・介護計画の評価基準が理解できる。 ・介護過程の一連のプロセスが理解できるようになる。 ・他者の介護計画の発表を聞く事で思考の引き出しを増やすことができる。				28	【到達目標】 ・不適切ケアから誤った介護過程の展開や介護保険制度、実際の介護現場の状況を理解することができる。			
13	【授業単元】 ・中間評価試験の実施。 ・実習に向けて、介護過程の展開のポイントについて確認する。 ・事例③について検討。				29	【授業単元】 ・期末試験の実施。 ・不適切ケア②の実際について考える。			
14	【到達目標】 ・介護過程の一連のプロセスが展開できるようになる。				30	【到達目標】 ・多職種連携と介護福祉士としての役割について理解することができるようになる。			
15	【授業単元】 ・中間評価試験の回答解説。 ・実習で取り組んだ介護計画を基に「点検シート(自己・他者)」を記入し振り返りを行う。				【成績評価の方法と基準】				
16	【到達目標】 ・中間評価試験を通して介護過程の理解度を確認することができる。 ・実習で取り組んだ介護計画の補完、修正点について気づくことができる。				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護過程の授業は「思考のトレーニング」です。事例検討については実際の利用者様がモデルとなっています。個人情報の取り扱いには十分に注意し、感謝の気持ちを常に持ちながら日常生活をお支えするという緊張感を持って事例検討に望んで下さい。また、介護過程の展開において、同じ介護スタッフや多職種との連携は必須です。人が話しているときは相手が何を伝えたいのか傾聴することと、自分の意見もしっかりと伝えられるように積極的にコミュニケーションを図っていきましょう。									

授業概要

科目名	介護過程Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	森 伸彦		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
利用者の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行ない、利用者の多様なニーズに応じた介護過程の展開技術を習得することができる。 根拠に基づいた介護を実践していくために、チームケアのチーム構成員として自分の考えをメンバーに伝達するコミュニケーション能力を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士として20年以上、介護支援専門員としては15年以上の現場での経験と、クオリティマネジャーとして社内全事業のサービスの質を管理している経験を偏りのない普遍的な内容に置き換え、実践で通用する介護過程の授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版(株) 最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版					「介護過程」の授業を通じて、学校以外でも「人が安心して生活できること」に自然と関心が向き、介護の経験値として蓄積できるようになることを目指す。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 ・ 2	【授業単元】 ・期末試験の回答解説。 ・前期不適切ケアの実践②の続き。 ・介護過程の一連の流れについて振り返りを行う。 【到達目標】 ・期末試験を通して介護過程の理解度を確認することができる。 ・不適切ケアを通して人権擁護、自尊心やプライバシーへの配慮に関する理解が深められる。 ・介護過程の一連のプロセスが展開できるようになる。				9	【授業単元】 【到達目標】			
3 ・ 4	【授業単元】 ・事例報告発表に向けた準備① 実習事例を振り返り、課題分析、目標、介護計画の修正、再構築を行う。 発表用シナリオ、PPフォーマットと注意点の説明。 【到達目標】 ・実習で学ばせて頂いた利用者様を思い出し、介護計画の修正、再構築を行うことができる。				10	【授業単元】 【到達目標】			
5 ・ 6	【授業単元】 ・事例報告発表に向けた準備② シナリオ作成。 【到達目標】 ・発表内容を整理し文章化することができる。				11	【授業単元】 【到達目標】			
7 ・ 8	【授業単元】 ・事例報告発表に向けた準備③ パワーポイント作成。作成時の注意点を説明。 【到達目標】 ・聞き手に「見やすく」「分かりやすい」パワーポイント資料の作成ができる。				12	【授業単元】 【到達目標】			
9 ・ 10	【授業単元】 ・事例報告発表に向けた準備④ シナリオ、パワーポイントの確認。 発表時のルール、順番を確認。 【到達目標】 ・発表の準備を整える事ができる。 ・発表者と聞き手の心構えを理解することができる。				13	【授業単元】 【到達目標】			
11 ・ 12	【授業単元】 ・実習事例発表① 発表後に質問、感想など。 【到達目標】 ・思考しながら他者の発表を聞く事ができる。 ・多様な介護過程の方法論を学ぶことができる。				14	【授業単元】 【到達目標】			
13 ・ 14	【授業単元】 ・実習事例発表② 発表後に質問、感想など。 【到達目標】 ・思考しながら他者の発表を聞く事ができる。 ・多様な介護過程の方法論を学ぶことができる。				15	【授業単元】 【到達目標】			
15 ・ 16	【授業単元】 ・実習事例の優秀者アンケートと発表。 ・優秀者の事例を検討。 ・定期試験の実施。 【到達目標】 ・定期試験を通して介護過程の理解度を確認することができる。 ・いつ、どのような時も利用者様一人ひとりの人生を見つめ、その方の人格、人権を尊重し、常に寄り添い、自立を支援することができるプロの介護福祉士になれる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護過程の授業は「思考のトレーニング」です。事例検討については実際の利用者様がモデルとなります。個人情報の取り扱いには十分に注意し、感謝の気持ちを常に持ちながら日常生活をお支えするという緊張感を持って事例検討に望んで下さい。また、介護過程の展開において、同じ介護スタッフや多職種との連携は必須です。人が話しているときは相手が何を伝えたいのか傾聴すること、自分の意見もしっかりと伝えられるように積極的にコミュニケーションを図っていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	介護総合演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	集中	担当 教員	前田皆子・小倉健吾							
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間					
【授業を通じての到達目標】														
利用者の生活とはどのようなものかを事前に理解し、行動目標を作成できるようになる。介護過程の展開との関係性を理解する。実習終了後は他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びである実習後の事後報告会で発表ができる。														
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)														
利用者の主たる生活の場である施設について、その役割や利用者像について学ぶ。介護過程の展開を踏まえた内容も含める。また実習目標を設定しその具体的行動目標を実現するための介護技術を学ぶ。実習終了後は他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びとする。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
実習と記録(JESC)					介護記録は文字を中心におこなう。よって書くことや読むこと、文字から想像できる力が必要となる。日頃から読む力や書く力、想像する力を養ってほしい。									
授業計画														
【実習前】 1. 施設実習における具体的実習目標の確認(1) 2. 施設実習における具体的実習目標の確認(2) 3. 施設実習における具体的実習目標の確認(3) 4. 実習目標の学生相互確認からの動機づけ 5. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(1) 6. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(2) 7. 介護過程実践のための知識と技術の応用(1) 8. 介護過程実践のための知識と技術の応用(2)														
【実習後】 1. 実習での学びの振り返り、レポート作成(1) 2. 実習での学びの振り返り、レポート作成(2) 3. 事例報告発表会(1) 4. 事例報告発表会(2) 5. 事例報告発表会(3) 6. 事例報告発表会(4) 7. 実習の総合的振り返りの会														
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】									
・実習で学んできたものを分析理解できるように書き残して、記録の学びにもつなげていけるよう心がけてほしいと考えている。					〈試験やレポートの評価基準など〉試験またはレポートにて可(60点以上)を合格とする。									

授 業 概 要

科目名	介護実習Ⅱ（施設実習Ⅱ）	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	3	単位	総時間数	160	時間
【授業を通じての到達目標】											
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
施設利用者の生活の場を知り、利用者への理解を深め、利用者の思いを実現する学びとする。ICFの視点にもとづき、利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する学びとする。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習と記録（JESC）						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
ア 施設の役割と地域における役割を確認する学び イ 施設と利用者・家族・地域との連携関係を学ぶ ウ 利用者の生活を支える多職種を知り、多職種協働の理解を深める エ 利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する オ 利用者の思いを実現する具体的な方法を知る カ 介護過程を展開できる キ 生活の連続性について知る ク 介護福祉士の役割を知る ケ 学びを記録することができる コ 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
介護福祉士倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	認知症の理解Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	坂本孝輔		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
認知症介護実践者として、チームメンバーの多様な視点から課題を分析する姿勢を身につける。 認知症の人が安心感をおぼえるコミュニケーションを身につける。 本人を主体としながらも、家族や介護者もむくわれる介護をイメージできるようになる。 介護現場で働くための意欲を高める。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
東京都認知症介護指導者として現場の課題解決の支援をしてきた教員が、27年介護現場で培った経験から、認知症の人と家族がしあわせに暮らしていくために必要な知識と視点、課題解決の方法を伝える。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護福祉士養成講座「認知症の理解」					5月から始まる施設実習時、認知症の人のBPSDで印象に残ったものを記録して7月からの授業に活用する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 認知症になると人生はどう変わるのか？自分ごととしてイメージしてみよう。				9	【授業単元】 事例検討～介護実習で出会った「あの人・あの瞬間」			
	【到達目標】 認知症になった後、自分がどう生きていきたいか言葉にできる 認知症になった自分に、どのように支援して欲しいか、未来の介護職へのメッセージを言葉にできる。実習などで経験した認知症の人のとふれあいで印象に残ったことを思い出してみる。					【到達目標】 チームで協力して認知症の人の「こまりごと」をひもときシートを使って分析することができる。 認知症の人の行動・心理の背景にある要因を理解できる。			
2	【授業単元】 チームビルディングとチームワーク				10	【授業単元】 ～病識とメタ認知～どうして認知症の人の心はかたくなになるのか			
	【到達目標】 様々な価値観を持つ人たちがあつまるからこそチームには価値があることを知る 忙しい中だからこそ有効なチームワークのコツをつかむ					【到達目標】 いわゆる「介護拒否」が起こる仕組みを理解し、どうしたら起きにくくなるかが分かる。			
3	【授業単元】 心理的安全性について理解する				11	【授業単元】 認知症の人を取り巻く環境とその影響			
	【到達目標】 心理的に安全な環境とは何か理解する。 心理的安全性が利用者の感情だけでなく働く職員にとっても重要であることを理解する。					【到達目標】 認知症の人が安心できる環境とは何か理解できる。 認知症の人にダメージを与える可能性のある環境を知る。			
4	【授業単元】 パーソンセンタードケア				12	【授業単元】 クリエイティブ認知症介護～先輩に聞いてみよう～			
	【到達目標】 パーソンセンタードケアを単なる理念ではなく、技術として落とし込む事を学ぶ 実施するとどのような効果があるか理解する。 実践に必要なポイントを理解する。					【到達目標】 認知症介護には色々な可能性があることを知る 自分だったらどんな介護施設を作りたいか、イメージできるようになる			
5	【授業単元】 生活支援(生活障害へのサポート)				13	【授業単元】 認知症の人が地域で暮らす為に必要なこと			
	【到達目標】 食事・入浴・排泄のケアのポイントを理解する。 社会的な生活障害を理解する。					【到達目標】 地域包括ケアシステムについて理解する 認知症初期集中支援チーム 認知症カフェ・家族支援・チームオレンジ、注文を間違える料理店などの取り組みを知る			
6	【授業単元】 認知症の人とのコミュニケーション				14	【授業単元】 家族支援			
	【到達目標】 ユマニチュード・バリデーションについて理解する 信頼関係構築のプロセスを理解する					【到達目標】 なぜ家族介護が難しいのか、理解する。 家族が認知症の人を介護する為に必要な支えは何かを理解する。 「施設家族介護」の重要性を理解する			
7	【授業単元】 認知症介護のセンスを磨く。 認知症介護のストレスマネジメント				15	【授業単元】 定期試験・これまでの授業の振り返り 試験解答			
	【到達目標】 先入観や固定観念を取り除き、目の前に起きているありのままについて思いをはせる。 町に出て、身近な自然に触れて「今」に集中することの大切さを理解する					【到達目標】 単元を通して学んだことを確認する これから自分なりにどんな介護をしていきたいかイメージを共有することができる。			
8	【授業単元】 ひもときシートを使ったBPSDとの向き合い方				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 BPSDを抑えよう、消そうとするのではなく、本人の状態を正しく捉えなおすことでおのずと対応方法が理解できる…を知ることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	障害の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	会澤 浩子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人への支援について理解する。 障害の特性を理解し、生活支援技術に応用することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学病院(外科)、回復期病院、看護教員、特別養護老人ホームなどにて就業経験のある看護師が授業を行う。 現場での経験を生かし、介護福祉士として必要な知識を講義する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護福祉士養成講座14 障害の理解:中央法規 必ず持参する					復習にあたっては、社会の理解・介護の基本・生活支援技術・こころとからだのしくみとはたらきなどの関連科目と併せて行う。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 障害の概念 肢体不自由(運動機能障害)				9	【授業単元】 内部障害(肝臓機能障害)			
	【到達目標】 ・障害のとらえ方について理解できる ・肢体不自由の特性について理解できる ・肢体不自由のある人への支援について理解できる					【到達目標】 ・肝臓のしくみとはたらきについて理解できる。 ・肝臓機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・肝臓機能障害に応じた支援について理解できる。			
2	【授業単元】 内部障害(心臓機能障害)				10	【授業単元】 内部障害(免疫機能障害)			
	【到達目標】 ・心臓のしくみと働きについて理解できる。 ・心臓機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・心臓機能障害に応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・免疫のしくみについて理解できる。 ・免疫機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・免疫障害に応じた支援について理解できる。			
3	【授業単元】 内部障害(膀胱直腸機能障害)				11	【授業単元】 聴覚・言語障害			
	【到達目標】 ・膀胱・直腸のしくみとはたらきについて理解できる。 ・膀胱・直腸機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・膀胱・直腸機能障害に応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・聴覚障害の種類について理解できる ・聴覚障害のある人への支援について理解できる			
4	【授業単元】 内部障害(小腸機能障害)				12	【授業単元】 聴覚・言語障害			
	【到達目標】 ・小腸のしくみとはたらきについて理解できる。 ・小腸機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・小腸機能障害に応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・言語障害の種類について理解できる ・言語障害のある人への支援について理解できる			
5	【授業単元】 内部障害(呼吸機能障害)				13	【授業単元】 重複障害			
	【到達目標】 ・呼吸器系のしくみとはたらきについて理解できる ・呼吸器障害の原因となる疾患について理解できる ・呼吸機能障害に応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・重複障害の種類について理解できる。 ・重複障害に応じた支援について理解できる。			
6	【授業単元】 視覚障害				14	【授業単元】 肢体不自由(運動機能障害) 第1回の学習内容の補足			
	【到達目標】 ・視覚障害の状態について理解できる ・視覚障害の特性について理解できる ・視覚障害に応じた支援について理解できる					【到達目標】 ・肢体不自由の状態について理解できる ・肢体不自由の特性について理解できる ・肢体不自由のある人への支援について理解できる			
7	【授業単元】 中テスト 各障害の代表的な疾患についてふりかえり				15	【授業単元】 定期試験 前期学習内容のふりかえり			
	【到達目標】 ・代表的な疾患の特徴、症状について想起できる					【到達目標】 ・前期学習内容で不明な点、苦手な点を明らかにすることができる			
8	【授業単元】 内部障害(腎臓機能障害)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・腎臓のしくみとはたらきについて理解できる。 ・腎臓機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・腎臓機能障害に応じた支援について理解できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
障害のある状態について理解し支援方法を学習します。生活支援技術につなげるために、障害別の理解から進めます。からだのしくみとはたらきを復習しながらになります。わからない時はいつでも質問してください。									

授業概要

科目名	障害の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	会澤浩子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人への支援について理解する。 障害の特性を理解し、生活支援技術に応用することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学病院(外科)、回復期病院、看護教員、特別養護老人ホームなどにて就業経験のある看護師が授業を行う。 現場での経験を生かし、介護福祉士として必要な知識を講義する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護福祉士養成講座14 障害の理解:中央法規 必ず持参する					復習にあたっては、社会の理解・介護の基本・生活支援技術・こころとからだのしくみとはたらきなどの関連科目と併せて行う。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 知的障害				9	【授業単元】 障害福祉の基本理念			
	【到達目標】 ・知的障害の特性について理解できる。 ・障害の特性に応じた支援について理解できる。 ・ライフステージに応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・ノーマライゼーションについて理解できる ・インクルージョンについて理解できる ・障害者権利条約について理解できる			
2	【授業単元】 重症心身障害				10	【授業単元】 障害者福祉に関する制度			
	【到達目標】 ・重症心身障害の特性について理解できる。 ・重症心身障害をもたす状態について理解できる。 ・重症心身障害に応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・障害福祉に関する歴史について理解できる ・障害者総合支援法にもとづくサービスについて理解できる ・障害者にかかる法律について理解できる			
3	【授業単元】 精神障害				11	【授業単元】 障害者福祉制度と介護保険制度			
	【到達目標】 ・精神障害の種類と特性について理解できる。 ・障害に応じた支援について理解できる。 ・障害に応じた社会資源について理解できる。					【到達目標】 ・障害者福祉制度と介護保険制度の違いについて理解できる ・両制度の併用のしくみについて理解できる			
4	【授業単元】 高次脳機能障害				12	【授業単元】 障害のある人の心理			
	【到達目標】 ・高次脳機能障害の具体的な症状、原因について理解できる。 ・高次脳機能障害による心身への影響について理解できる。					【到達目標】 ・人間に欲求の段階について理解できる ・適応機制について理解できる ・障害受容の段階に応じた支援について理解できる			
5	【授業単元】 高次脳機能障害				13	【授業単元】 連携と協働			
	【到達目標】 ・高次脳機能障害による生活面への影響について理解できる。 ・高次脳機能障害に応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・地域のサポート体制と社会資源について理解できる。 ・障害福祉サービスのしくみと相談支援専門員の役割を理解できる。 ・チームアプローチのあり方について理解できる。			
6	【授業単元】 発達障害				14	【授業単元】 家族への支援			
	【到達目標】 ・発達障害の特性について理解できる。 ・発達のある人の生活と支援について理解できる。 ・家族、教育、医療との連携について理解できる。					【到達目標】 ・障害の考え方、障害に応じた支援について考えを述べることができる。 ・家族への支援について考えを述べることができる。			
7	【授業単元】 難病				15	【授業単元】 障害を理解することについて 定期テスト			
	【到達目標】 ・難病の定義について理解できる。 ・おもな難病の症状について理解できる。 ・難病の人に対する生活上の支援について理解できる。					【到達目標】 ・障害のある人への支援について、ふりかえることができる。 ・理解が不足している項目について、ふりかえることができる。			
8	【授業単元】 難病 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・難病の定義について理解できる。 ・おもな難病の症状について理解できる。 ・難病の人に対する生活上の支援について理解できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
障害の理解のつづきになります。後半は制度・法律などの内容です。言葉が難しくなることがあります。わからない時はいつでも質問してください。									

授業概要

科目名	医療的ケア	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	内山 裕美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義・演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師として大学病院や介護施設での勤務・大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、人間のこころとからだのしくみを理解する授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア 第2版 中央法規出版									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 介護職の行う医療的ケアの意義 【到達目標】 ・介護職が行う医療的ケア(喀痰吸引と経管栄養)がイメージできる				9	【授業単元】 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ①呼吸器系のしくみとはたらき ②いつもと違う呼吸状態 【到達目標】 ・呼吸器系のしくみとはたらき、疾患を説明できる ・いつもと違う呼吸状態について説明できる			
2	【授業単元】 医行為 【到達目標】 ・法律における医行為の定義、倫理を説明できる				10	【授業単元】 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ③喀痰吸引 【到達目標】 ・痰の排出するしくみ、痰の貯留をしめす状態を説明できる ・喀痰吸引とは何かを説明できる ・喀痰吸引が必要な状態を説明できる			
3	【授業単元】 医療的ケアの背景 実施するための要件 【到達目標】 ・医療的ケアの制度を説明できる ・介護福祉士が医療的ケアを実施するための要件を説明できる				11	【授業単元】 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ④人工呼吸器と吸引 ⑤子どもの吸引 【到達目標】 ・人工呼吸器が必要な状態と人工呼吸器のしくみを説明できる ・子どもと成人の違い、留意点を理解できる			
4	【授業単元】 安全な療養環境 【到達目標】 ・医療的ケアにおけるリスクマネジメント、インシデントアクシデントレポートを説明できる				12	【授業単元】 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ⑥吸引が必要な利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 ⑦呼吸器系の感染と予防 【到達目標】 ・経管栄養が必要な利用者や家族の気持ちを考えることができる ・呼吸器系の感染と予防法を説明できる			
5	【授業単元】 清潔保持と感染予防 ①感染予防 ②消毒と滅菌 【到達目標】 ・介護職の感染予防を考えることができる ・療養環境の清潔と消毒方法が説明できる ・医療的ケアにおける消毒と滅菌を説明できる				13	【授業単元】 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ⑧喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 【到達目標】 ・喀痰吸引により生じる危険と事後の安全確認について説明できる			
6	【授業単元】 健康状態の把握① 【到達目標】 ・健康状態を知る項目を説明できる				14	【授業単元】 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 ①喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持 ②吸引の技術と留意点 【到達目標】 ・喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみについて説明できる ・吸引の技術と留意点を説明できる			
7	【授業単元】 健康状態の把握② 【到達目標】 ・健康状態を知る項目を実施できる ・急変状態を説明できる				15	【授業単元】 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論と実施手順の振り返り 定期試験 【到達目標】 ・喀痰吸引に必要な知識を再確認し、再習得できる			
8	【授業単元】 第1～7回までの振り返り 中間試験 【到達目標】 ・医療的ケアの背景と実施に必要な知識を確認し、再習得できる				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
医療的ケアは、利用者のからだに直接的な影響を与える技術です。安全な医療的ケアを実践するために、知識と技術が融合されるように学習しましょう。									

授 業 概 要

科目名	医療的ケア	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	内山 裕美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義・演習	単位数	2 単位	総時間数	50 時間
【授業を通じての到達目標】									
医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師として大学病院や介護施設での勤務・大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、人間のこころとからだのしくみを理解する授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア 第2版 中央法規出版					演習日は、事前に実施内容を確認する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 ③喀痰吸引にともなうケア ④報告および記録				9	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 ③経管栄養に必要なケア ④報告および記録 演習前オリエンテーション			
	【到達目標】 ・痰を出しやすくするケア方法を説明できる ・報告する内容と記録の内容を説明できる					【到達目標】 ・経管栄養に必要なケア方法を説明できる ・報告する内容と記録の内容を説明できる			
2	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ①消化器系のしくみとはたらき ②消化・吸収とよくある消化器症状				10	【授業単元】 演習：経管栄養 ①胃ろう・腸ろう経管栄養			
	【到達目標】 ・消化器系のしくみとはたらき、疾患を説明できる ・消化器症状を説明できる					【到達目標】 ・胃ろう、腸ろう経管栄養の留意点を理解し、実施できる			
3	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ③経管栄養				11	【授業単元】 演習：経管栄養②経鼻経管栄養			
	【到達目標】 ・経管栄養が必要な状態を説明できる ・経管栄養のしくみと種類を説明できる					【到達目標】 ・経鼻経管栄養の留意点を理解し、実施できる			
4	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ④注入する栄養剤				12	【授業単元】 演習：喀痰吸引 ①口腔・鼻腔内の喀痰吸引			
	【到達目標】 ・生命維持に必要な栄養と水分摂取の重要性を説明できる ・経管栄養で注入する栄養剤について説明できる					【到達目標】 ・口腔・鼻腔内の喀痰吸引の留意点を理解し、実施できる			
5	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ④経管栄養実施上の留意点 ⑤子どもの経管栄養について ⑥経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意				13	【授業単元】 演習：喀痰吸引 ②気管カニューレ内部の喀痰吸引			
	【到達目標】 ・経管栄養実施上の留意点を説明できる ・子どもの経管栄養と成人の違いと留意点を理解できる ・経管栄養が必要な利用者と家族の気持ちを考えることができる					【到達目標】 ・滅菌物の操作が実施できる ・気管カニューレ内部吸引の留意点を理解し、実施できる			
6	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ⑦経管栄養に関係する感染と予防 ⑧経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 ⑨急変・事故発生時の対応と事前対策				14	【授業単元】 医療的ケアのまとめ			
	【到達目標】 ・経管栄養に関する感染と予防法を説明できる ・経管栄養により生じる危険と注入後の安全確認について説明できる ・急変・事故発生時の対応と事前対策について説明できる					【到達目標】 ・国家試験に向けて、問題を解きながら知識を再確認できる			
7	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 ①経管栄養で用いる器具・器材のしくみ、清潔保持 ②経管栄養の技術と留意点				15	【授業単元】 医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)の振り返り 定期試験			
	【到達目標】 ・経管栄養で用いる器具・器材のしくみを説明できる ・経管栄養の技術と留意点を説明できる					【到達目標】 ・医療的ケアに必要な知識を再確認し、再習得できる			
8	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論と実施手順の振り返り 中間試験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・経管栄養に必要な知識を再確認し、再習得できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
医療的ケアは、利用者のからだに直接的な影響を与える技術です。安全な医療的ケアを実践するために、知識と技術が融合されるように学習しましょう。									

授業概要

科目名	介護福祉士総合講座Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	前田皆子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
養成目的を見据え、介護福祉士としての視点を高める。									
【学習内容									
東京福祉専門学校卒業後、介護福祉士として特別養護老人ホームで介護業務に従事してきた教員が、現場の実際を交えながら介護福祉士に必要な視点を養うための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。					各回の予習・調べ学習や講義後の課題。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1 (4/3)	【授業単元】 オリエンテーション この1年を知る			9 (7/10)	【授業単元】 介護福祉士のキャリアについて				
	【到達目標】 チーム答えを導き出すことができる				【到達目標】 介護福祉士のキャリアの広がりについて知り、説明することができる。				
2 (4/17)	【授業単元】 実習Ⅱ(施設実習)の準備 「誠実な介護福祉士」とは・「誠実な介護福祉士」になる為に必要な力とは			10 (7/17)	【授業単元】 介護福祉士の働く場所の選択肢について				
	【到達目標】 誠実な介護福祉士になる為の目標を設定することができる。 自己紹介書を作成することができる。				【到達目標】 自分自身がどのような場所で働くか、具体的にイメージし、述べることができる。				
3 (4/24)	【授業単元】 就職活動準備①			11 (7/24)	【授業単元】 第2回模擬試験にむけて				
	【到達目標】 東京福祉専門学校の就職活動について理解することができる。				【到達目標】 第2回模擬試験の目標を再確認し、介護福祉士になるための準備をすることができる。				
4 (5/1)	【授業単元】 就職活動準備②			12 (7/31)	【授業単元】 模擬試験振り返り 夏休みに向けて				
	【到達目標】 就職活動の準備に取り組むことができる。				【到達目標】 自分の目標に沿って夏休みの行動計画を立案することができる。				
5 (5/8)	【授業単元】 実習Ⅱ(施設実習)の準備 ITリテラシー・DXリテラシー			13 (8/7)	【授業単元】 介護福祉士国家試験受験について 介護福祉士国家試験受験の目的・目標の確認 受験申込				
	【到達目標】 ITリテラシー・DXリテラシーを理解することができる。				【到達目標】 自分なりの介護福祉士国家試験受験の意義・目的・目標を再確認することができる。				
6 (5/15)	【授業単元】 実習Ⅱ(施設実習)の準備			14 (8/28)	【授業単元】 夏休み明けテスト(夏休みの宿題より出題) 前期を振り返る				
	【到達目標】 実習Ⅱ(施設実習)の目的を理解し、説明することができる。				【到達目標】 前期の振り返りから、自己・他者共に出来た事を認め、誤え合うことができる。				
7 (5/22)	【授業単元】 前期中間試験 模擬試験振り返り 実習Ⅱ(施設実習)の準備			15 (9/4)	【授業単元】 前期期末試験				
	【到達目標】 模擬試験を振り返り、次の目標を立てることができる。 実習Ⅱ(施設実習)の目標を立案し、他者へ伝えることができる。				【到達目標】 前期を振り返り、目標に対する自己の課題を抽出し、卒業後に向けた行動計画を再設定することができる。				
8 (7/3)	【授業単元】 施設実習Ⅱ 振り返り			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(7回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 実習を得て「誠実な介護福祉士」について考えたことを述べることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
個人ワーク・グループワークを通して授業を進めていきます。 クラス全員で関わり合いながら、取り組んでください。 2年生は多忙ですが、全員で山を乗り越えます。									

授 業 概 要

科目名	介護福祉士総合講座Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	前田皆子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
養成目的を見据え、介護福祉士としての視点を高める。									
【学習内容									
東京福祉専門学校卒業後、介護福祉士として特別養護老人ホームで介護業務に従事してきた教員が、現場の実際を交えながら介護福祉士に必要な視点を養うための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。					各回の予習・調べ学習や講義後の課題。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 後期オリエンテーション			9	【授業単元】 国家試験について				
	【到達目標】 後期のスケジュールについて確認することができる。 何をしなければいけないか、具体的に把握することができる。				【到達目標】 先週を振り返り、現在の状況を踏まえたうえで、学習計画を再確認することができる。				
2	【授業単元】 行動計画の立案			10	【授業単元】 国家試験について 11月の振り返り・12月スケジュール確認				
	【到達目標】 先週のスケジュールをもとに、卒業までの行動計画を立案することができる。				【到達目標】 先週を振り返り、現在の状況を踏まえたうえで、学習計画を再確認することができる。				
3	【授業単元】 国家試験について 9月の振り返り・10月のスケジュール確認			11	【授業単元】 第5回模擬試験にむけて				
	【到達目標】 現在の自分の状況を把握し、学習計画を再確認することができる。				【到達目標】 第5回模擬試験の目標を再確認し、介護福祉士になるための準備をすることができる。				
4	【授業単元】 国家試験について			12	【授業単元】 卒業に向けて				
	【到達目標】 現在の自分の状況を把握し、学習計画を再確認することができる。				【到達目標】 自分の強みを活かし、介護福祉士として活躍するための決意を述べることができる。				
5	【授業単元】 国家試験について			13	【授業単元】 冬休みの過ごし方 大掃除				
	【到達目標】 現在の自分の状況を把握し、学習計画を再確認することができる。				【到達目標】 自分の目標に沿って冬休みの行動計画を立案することができる。				
6	【授業単元】 国家試験について(模擬試験振り返り) 10月の振り返り・11月のスケジュール確認			14	【授業単元】 国家試験受験について 合格祈願				
	【到達目標】 現在の自分の状況を把握し、学習計画を再確認することができる。				【到達目標】 国家試験受験の意義・目的・目標を再確認し、クラス全員で合格へのモチベーションを高めることができる。				
7	【授業単元】 国家試験について			15	【授業単元】 定期試験 2年間の振り返り				
	【到達目標】 現在の自分の状況を把握し、学習計画を再確認することができる。				【到達目標】 この2年間の振り返り、卒業後に向けての決意を述べることができる。				
8	【授業単元】 振り返り・後期中間試験			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 これまでの振り返りを行い、目標に対する自己の課題を抽出し、卒業に向けた計画を再設定することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
個人ワーク・グループワークを通して授業を進めていきます。 クラス全員で関わり合いながら、取り組んでください。 2年生は多忙ですが、全員で山を乗り越えます。									

科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。
また、試験は筆記試験で行う。
毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。

授業概要

科目名	介護みらいプログラムⅡ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	高橋 利明		
学科コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉士の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホームにおいて、施設長として介護ロボット導入やICT化に取り組んだ経験をもとに、現在は介護施設のDXコンサルタントとして活動している教員が講義を展開する。授業内容はスマート介護士資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
スマート介護士 公式テキスト(三訂版)					指定科目の学びの内容と本科目の内容を照らし合わせながら取り組むこと。「介護とは何か?」「何をを目指すのか」を常に念頭におきながら参加すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 4/2	【授業単元】 1年次の内容振り返りと今年度のテーマ確認				9 7/9	【授業単元】 HitomeQ特別授業②(データ活用)			
	【到達目標】 科目概要を理解する。 令和6年度介護報酬改定の方向性について理解する 1年終了時のアンケートの振り返りができる					【到達目標】 どのようなデータが得られるのか 得られたデータをどのように活用するかを学ぶことができる			
2 4/16	【授業単元】 令和6年度介護報酬改定の方向性について理解する				10 7/16	【授業単元】 スマート介護士の内容理解			
	【到達目標】 2024年3月5日開催介護の生産性向上フォーラムの内容を理解する					【到達目標】 実際の施設事例から、ICT化に必要なプロセスを学ぶことができる ・具体的にどのような機器が有効になるか? ・現場の課題と解決先を検討する			
3 4/23	【授業単元】 スマート介護士の内容理解				11 7/23	【授業単元】 介護ICTの内容理解			
	【到達目標】 スマート介護士の資格概要を理解できる 模擬試験問題に取り組むことができる					【到達目標】 ハナストの体験②			
4 4/30	【授業単元】 スマート介護士の内容理解				12 7/30	【授業単元】 介護ロボット各論			
	【到達目標】 実際の施設事例から、ICT化に必要なプロセスを学ぶことができる ・課題の優先順位 ・プロジェクト(委員会)の発足 ・補助金の理解					【到達目標】 重点開発分野について理解する 介護ロボットの体験(予定)			
5 5/7	【授業単元】 スマート介護士の内容理解				13 8/6	【授業単元】 介護ロボット各論			
	【到達目標】 実際の施設事例から、ICT化に必要なプロセスを学ぶことができる ・ICT化のベースとなるネットワーク ・どのような種類のICTがあるのか					【到達目標】 事例についての振り返りにより、導入に向けたプロセスを理解できる 介護ロボットの体験(予定)			
6 5/14	【授業単元】 HitomeQ特別授業①(データ活用)				14 8/27	【授業単元】 介護ロボット各論			
	【到達目標】 どのようなデータが得られるのか 得られたデータをどのように活用するかを学ぶことができる					【到達目標】 事例についての振り返りにより、導入に向けたプロセスを理解できる 介護ロボットの体験(予定)			
7 5/21	【授業単元】 生産性向上の考え方の理解スマート介護士の内容理解				15 9/3	【授業単元】 介護ロボットの活用について			
	【到達目標】 スマート介護士の概要について理解することができる					【到達目標】 介護ロボットの目的、種類、導入に向けたプロセスについて理解できる			
8 7/2	【授業単元】 スマート介護士の内容理解				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 実際の施設事例から、ICT化に必要なプロセスを学ぶことができる ・具体的にどのような機器が有効になるか? ・現場の課題と解決先を検討する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークや周囲の意見を聞き、または発言し、全員が理解を深めるということを授業の基本スタイルとする。									

授業概要

科目名	介護みらいプログラムⅡ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	高橋 利明		
学科コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となれるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉士の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホームにおいて、施設長として介護ロボット導入やICT化に取り組んだ経験をもとに、現在は介護施設のDXコンサルタントとして活動している教員が講義を展開する。授業内容はスマート介護士の資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
スマート介護士 公式テキスト(三訂版)					指定科目の学びの内容と本科目の内容を照らし合わせながら取り組むこと。「介護とは何か?」「何をを目指すのか」を常に念頭におきながら参加すること。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
19/12	【授業単元】 前期内容の振り返りと後期内容の理解			911/7	【授業単元】 マネジメントについての理解①				
	【到達目標】 振り返りができる後期内容(マネジメント)について理解するなぜ介護福祉士にマネジメン				【到達目標】 ゲストからの講演なぜ、マネジメントが必要なのか?を理解する。				
29/19	【授業単元】 科学的介護基礎論①			1011/21	【授業単元】 HitomeQ特別授業③				
	【到達目標】 科学的介護とは何か?について理解する。				【到達目標】 デジタル介護過程				
39/26	【授業単元】 科学的介護基礎論①			1111/28	【授業単元】 HitomeQ特別授業④				
	【到達目標】 LIFEの現状と課題、今後の工夫の仕方について理解する				【到達目標】 デジタル介護過程				
410/3	【授業単元】 ケアテック導入の実践理論①			1212/5	【授業単元】 マネジメントについての理解①				
	【到達目標】 ケアテックを実際に介護事業所へ導入するための手順を理解する				【到達目標】 ゲストからの講演マネジメントの実践方法を理解する。				
510/10	【授業単元】 ケアテック導入の実践理論②			1312/12	【授業単元】 介護DXの実践事例から学ぶ				
	【到達目標】 ケアテックの選定、導入、実践、評価のポイントを理解することができる				【到達目標】 介護DXとはなにか?を理解する介護DXを推進するために、介護福祉士に求められる力について				
610/17	【授業単元】 科学的介護の実践理論①			1412/19	【授業単元】 介護DXの実践事例から学ぶ				
	【到達目標】 科学的介護の実践方法について理解することができる。				【到達目標】 介護DXを推進するために、介護福祉士に求められる力について振り返り、まとめることができる				
710/24	【授業単元】 科学的介護の実践理論②			151/9	【授業単元】 マネジメントについて				
	【到達目標】 科学的介護実践の課題と今後の展望について理解する				【到達目標】 介護業界を知り、介護DXを学んだ介護福祉士が、現場でどのような活躍が求められている				
810/31	【授業単元】 科学的介護について			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 科学的介護の必要性、実践方法を理解することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークや周囲の意見を聞き、または発言し、全員が理解を深めるということを授業の基本スタイルとする。									

授業概要

科目名	介護福祉士総合講座Ⅳ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	野々垣和江・渡邊義昭		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
国家試験に備え、これまでの復習を行い、介護福祉士に求められる知識を総合的に学ぶ。									
【学習内容】									
①介護福祉士国家試験受験を経験し、東京福祉専門学校卒業後は小規模多機能型居宅介護で実務に従事している介護福祉士②長年に渡り専門学校や大学で国家試験対策を行ってきた教員が、介護福祉士としての基礎的な知識向上と応用できる知識を得るための授業を行い、国家試験の合格力を高めていく内容。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
◆介護福祉士国家試験 過去問解説集【2024年度版】(中央法規出版) ◆介護福祉士 国試ナビ 【2024年度版】(中央法規)					使用教材の予習・復習				
	授業計画			コマ	授業計画				
1・2	【授業単元】 オリエンテーション 知識の再確認①			17・18	【授業単元】 知識の再確認⑨				
	【到達目標】 ・この授業のルールについて理解することができる。 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
3・4	【授業単元】 知識の再確認②			19・20	【授業単元】 知識の再確認⑩				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
5・6	【授業単元】 知識の再確認③			21・22	【授業単元】 知識の再確認⑪				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
7・8	【授業単元】 知識の再確認④			23・24	【授業単元】 知識の再確認⑫				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
9・10	【授業単元】 知識の再確認⑤			25・26	【授業単元】 知識の再確認⑬				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
11・12	【授業単元】 知識の再確認⑥			27・28	【授業単元】 知識の再確認⑭				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
13・14	【授業単元】 知識の再確認⑦ 前期中間試験			29・30	【授業単元】 知識の再確認⑮ 前期期末試験				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。・知識を広げることができる。 ・前半の学びにおける成果を確認することができる。 ・学びのスタイルを振り返り、次の目標が立案できる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。 ・前期の学びにおける到達度を確認することができる。				
15・16	【授業単元】 知識の再確認⑧			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(7回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークも取り入れて学習をします。自分視点だけでなく、他者視点も取り込みながら知識を深めていきましょう。主体的・積極的に取り組むことが大切です。									

授業概要

科目名	介護福祉士総合講座Ⅳ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	野々垣和江・渡邊義昭・前田皆子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	12 単位	総時間数	180 時間
【授業を通じての到達目標】									
国家試験に備え、これまでの復習を行い、介護福祉士に求められる知識を総合的に学ぶ。									
【学習内容】									
①介護福祉士国家試験受験を経験し、東京福祉専門学校卒業後は小規模多機能型居宅介護で実務に従事している介護福祉士②長年に渡り専門学校や大学で国家試験対策を行ってきた教員③東京福祉専門学校卒業後、特別養護老人ホームで介護業務に従事してきた介護福祉士が、介護福祉士としての基礎的な知識向上と応用できる知識を得るための授業を行い、国家試験の合格力を高めていく内容。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
◆介護福祉士国家試験 過去問解説集【2024年度版】(中央法規出版) ◆介護福祉士 国試ナビ 【2024年度版】(中央法規)					使用教材の予習・復習				
	授業計画			コマ	授業計画				
1～5	【授業単元】 オリエンテーション 知識の再確認①			41～ 45	【授業単元】 知識の再確認⑨				
	【到達目標】 ・この授業のルールについて理解することができる。 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
6～ 10	【授業単元】 知識の再確認②			46～ 50	【授業単元】 知識の再確認⑩				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
11～ 15	【授業単元】 知識の再確認③			51～ 55	【授業単元】 知識の再確認⑪				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
16～ 20	【授業単元】 知識の再確認④			56～ 60	【授業単元】 知識の再確認⑫				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
21～ 25	【授業単元】 知識の再確認⑤			61～ 65	【授業単元】 知識の再確認⑬				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
26～ 30	【授業単元】 知識の再確認⑥			70～ 75	【授業単元】 知識の再確認⑭				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
31～ 35	【授業単元】 知識の再確認⑦			76～ 80 81～ 90	【授業単元】 知識の再確認⑮ 後期期末試験 国家試験週間・自己採点				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。 ・国家試験に自信をもって受験する準備を整えることができる ・自己採点をし、合格をつかみ取ることができる。				
36～ 40	【授業単元】 知識の再確認⑧ 後期中間試験			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。・知識を広げることができる。 ・前半の学びにおける成果を確認することができる。 ・学びのスタイルを振り返り、次の目標が立案できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークも取り入れて学習をします。自分視点だけでなく、他者視点も取り込みながら知識を深めていきましょう。主体的・積極的に取り組むことが大切です。									